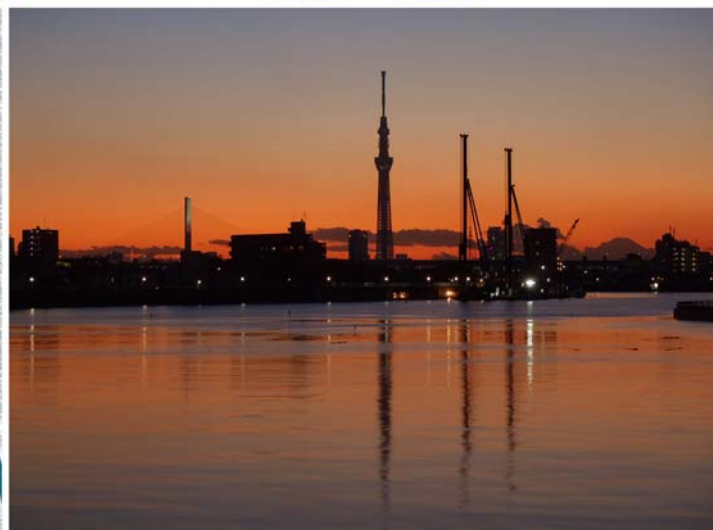
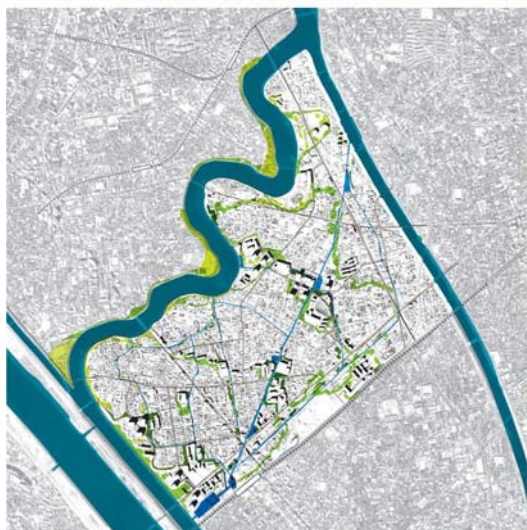
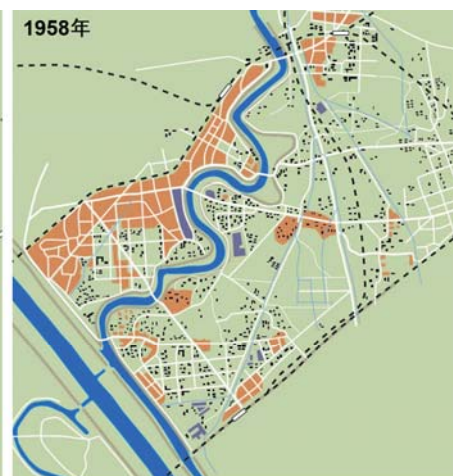
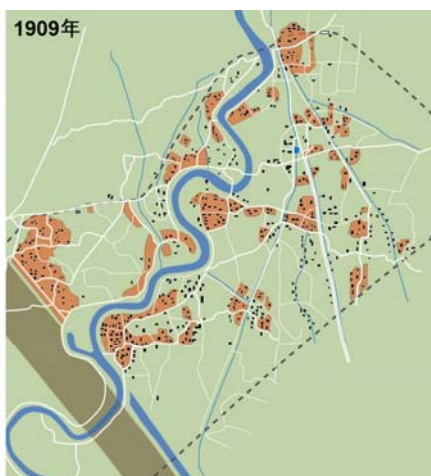


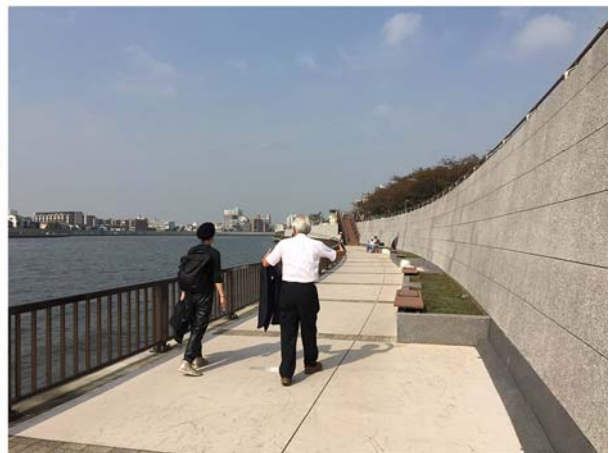
ア！安全・快適街づくりニュース

2017年6月 vol.23 2017年度総集編

人を育み川 中川

朝日映る
空の山
夕日に染まる
スカイツリー
老舗の街
9はむ街
森羅の家
万葉の昔から
人を育み川
中川
お重 石川金次郎





目次	
はじめに	
設立15年目にあたって：成戸 寿彦.....	2
平成28年度の活動をふり返って：宇賀 俊夫	4
理事から	
輪中会議の意義と次への期待：加藤 孝明.....	6
浸水リスクと賢く共生する親水都市：加藤 孝明	10
輪中会議と全国まちづくり会議 そして、まちづくり意識の共有について：土肥 英生.....	12
空から見た新小岩北地区：中村 仁	14
地域から、学校から、南極から	
西新小岩三丁目町会勉強会報告：船山 吉久.....	15
水害時避難場所高台等整備勉強会の提言について（回答）：葛飾区.....	20
南極昭和基地で考える自然環境に対する心構え：岡田 雅樹	24
二上小学校 学校だより「南極と学校がつながる瞬間」：景山 与賜也.....	26
地域と上中地域防災ボランティア部：布施 実	28
輪中会議の感想：小豆嶋 勇誓	30
地域の方々から学ぶ：渋谷 英一	32
出会いの季節：東原 洋子.....	33
歴史が語る新小岩（旧上平井地区）：中川 榮久.....	34
行政から	
洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難について：内閣府 多田、吉松、大方.....	41
区の水害対策について：葛飾区 長谷川、若林、大田、目黒	42
事務局から	
NPO ア！のホームページ状況、「天サイ！まなぶくん」の広がりについて：古川 修.....	43
コラボかつしかまつり2016 「ダンダンダン 共に創ろう街の未来」参加報告：山上 忠.....	44
カスリーン台風って知っていますか？：廣木 良司.....	46
平成28年度(前期)葛飾区地域活動団体助成事業活動報告：増澤 一郎.....	48
前理事長 石川金治氏 「平成29年河川功労者」として表彰される：廣木 良司.....	51
第10回輪中会議開催報告	52
会員から、学生から	
エジプト水辺スケッチ紀行：山上 忠.....	54
上平井中学校 地域防災ボランティア部の支援報告と 地域活動の今後の展開に向けて：南 貴久	56
注目されてます！新小岩北地区の取り組み：渡邊 喜代美、塩崎 由人.....	59
編集担当から	
表紙・裏表紙の写真について：塩崎 由人.....	60
新小岩北地区における取り組みの系譜（年表）：塩崎 由人、渡邊 喜代美	62
編集後記：渡邊 喜代美.....	66

設立15年目にあたって

成戸 寿彦

NPOア！安全・快適街づくり 理事長

まず、NPO設立に貢献された石川前理事長・徳倉前副理事長・鈴木前理事を語る会を、昨年11月に盛会裏のうちに開催することができました。ありがとうございました。

そして今年は、NPO設立15年の節目の年を迎えました。

例年のように輪中会議、出前授業、町会活動の手助けなどを中心に活動してまいります。今年にはまたカスリーン台風による葛飾区はじまって以来の甚大な被害を受けてより70年目となる節目の年でもあります。この機会に、各方面のご協力をいただきながら、下記のような企画を試みたいと調整しているところです。

「災害から学ぶ ～カスリーン台風70年の節目に～」

カスリーン台風の豪雨により利根川の上流が決壊したのが昭和22年9月16日未明。その洪水が葛飾区に及んだのが19～20日にかけてですので、この企画を18日（月曜日・敬老の日）に開催する方向で検討しています。パネルディスカッション形式のこの企画の内容は調整中ですが、大体以下のようなものになるものと思います。

第一部と第二部に分かれていますが、第一部は「カスリーン台風の記憶と経験の共有」として、利根川や荒川ができた地理的な経緯と洪水の歴史などを紹介し、ついでカスリーン台風による利根川が決壊と葛飾区に及ぶまでの経緯を話していただきます。そして葛飾区内が時々刻々変化してゆく様子を、当時の経験談を交えて体験者にお話しいただきます。こうしたプレゼンテーションをもとに、町会を中心にした地域の方々が浸水被害から防御する取り組みをどのように行ってきたかを含め、パネルディスカッション形式で話し合ってください。

第二部は、「浸水から親水へ」として水辺の活用を話題にします。低地帯であることは浸水被害を受けるリスクが大きいのは事実ですが、水辺に近いということはアイディア次第では街づくり資源としての活用も可能であるということでもあります。例えば堤防やテラスの活用、あるいは浸水対応型街づくりへの取り組みなどなど水辺空間を活用するアイディアを、パネルディスカッション形式で語りあいたいと思います。

このように70年前の浸水を振り返るのは、川の危険性をアピールすることだけが目的ではなく、多くの方々に川にもっと目を向けてもらい、川をもっと親しみのあるものに変えていくことが目的です。

現在東京都では、小池知事のもとで『都市づくりのグランドデザイン(仮称)』を策定中で、今年の夏には公表される予定です。その中では七つの戦略と30の政策方針を明示し、わかりやすい政策提言となっています。例えば戦略3「災害リスクと環境問題に立ち向かう都市の構築」では、政策方針11「様々な被害を想定し、災害に強い都市を作る」具体策を提言していますし、戦略6「四季折々の美しい緑と水を編み込んだ都市の構築」の政策方針26では「水辺を楽しめる都市空間を創出する」として「開発の機会等をとらえ、水辺沿いのオープンスペースとともに賑わい施設を誘導するなど、移動性や回遊性の高い親水拠点形成を図ります。」と、水辺に顔を向けた街づくりの推進を掲げています。

今までこの新小岩北地域では、各町会を中心に、浸水にいかに対応するかについて取り組んでまいりました。これからは高台化された新小岩公園の活用方策や河川沿いの市街地整備に合わせた堤防の活用などなど、「親水型のまちづくり」にも目を向ける時代になってくると思います。当NPOも、地域の皆さまのこうした取り組みのお手伝いをしてまいります。

最後に皆さまへお礼方々の報告があります。それは、葛飾区新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会が「葛飾協働まちづくり表彰」を受け、下の写真にありますように、この3月30日に青木区長から賞状と記念品をいただいております、ということです。これも協議会の皆さま方の日頃のご努力が評価されたもので、喜びに耐えません。これを励みに、これからも皆さま方と共に努力を続けてまいりたいと思います。



平成28年度の活動を振り返って

宇賀 俊夫

NPOア！安全・快適街づくり

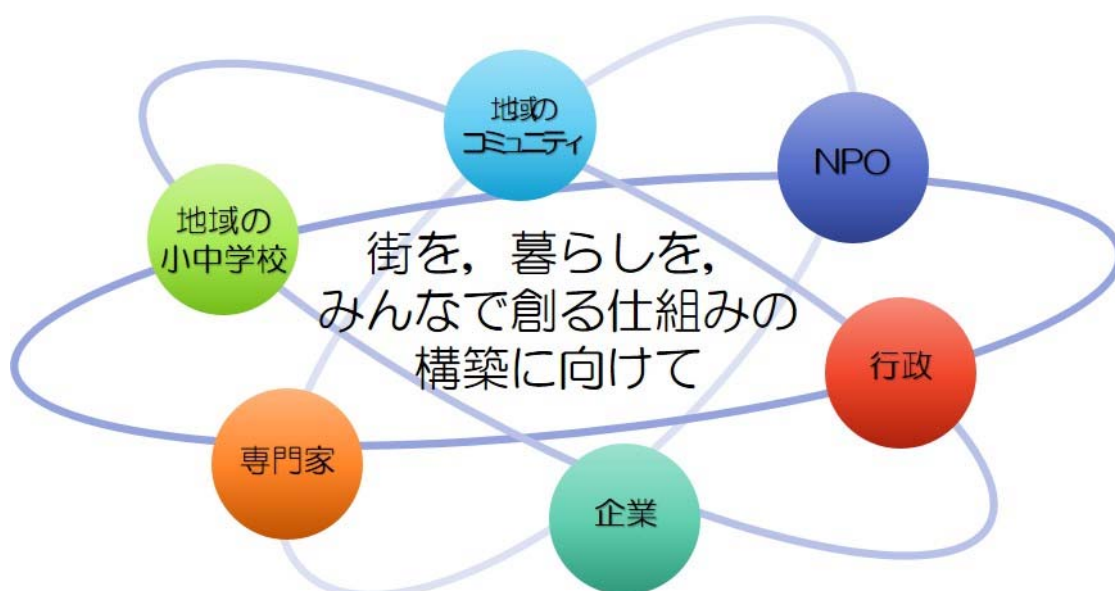
平成28年度は次のような活動を行いました。

- (1) 27年11月から28年2月の間にNPO設立の発起人代表であり、理事長を務めた石川金治氏、同じく発起人で副理事長だった徳倉真治氏、地元の代表としてNPOの活動を支援した新小岩三丁目の町会長で理事の鈴木一喜氏があいついで逝去されました。この三氏のNPOでの活動に対する貢献を振り返りつつ、その遺志を受け継いで地域のこれからについて語り合うという趣旨で「三氏を語る会」を28年11月20日に葛飾区新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会の主催で開催しました。当日は青木葛飾区長をはじめとして協議会の構成団体等から70余名の方々が出席すると共に、三氏のご遺族も参加され、第1部「三氏を偲ぶ」、第2部「地域のこれからを語る」の2部構成で行われ、三氏の思い出を語ると共に、今後の活動の進むべき方向について意見表明が行われました。
- (2) 28年度も「葛飾区新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会」の活動として29年3月26日に輪中会議を開催しました。今回のテーマは「新たな経験を共有、水害リスクと賢く共生し、地域の未来・親水都市も考える」というものです。今回は上平井中地域防災ボランティア部の生徒による報告があったり、新たに医師会副会長や多数の町会防災担当役員も参加し、活発な意見交換が行われました。
- (3) 西新小岩三丁目町会有志が立ち上げた、水害発生時の避難先としての高台設置に関する勉強会の運営について引き続き協力しました。その結果を区役所の提出したのに対し、区からの正式回答書を持参して担当部長と課長が勉強会を訪れ、補足説明を行うと共に意見交換が行なわれました。区の回答は区の今後の大規模水害対策の取組みに貴重な意見として参考にするとのことでした。ただ、具体化には、技術的な検討や新たな計画の策定その他、新小岩公園高台整備事業や都の緩傾斜型堤防整備事業の進捗に合わせ、検討や要望を行うとのこと、提言の実現には時間を要するとのことでした。今後、勉強会としては、区の回答が区の計画や施策にどのように反映されるかを見守っていく所存です。
今後勉強会としては切迫している大地震やそれに伴う水害に備えるた

め、災害弱者を考慮に入れた町会避難計画の作成や近隣の堅固な高い建物を避難施設として活用する方法などについて勉強を進め、目に見える成果を一つひとつ積み上げていく予定です。

- (4) 葛飾区の地域活動団体事業費助成制度を利用した活動では、引き続き「災害発生時の避難方法について家庭で親子で話しあう」ことを目的としたワークシートによる学習、出前講座を地元講師を交えて地域の小学校児童や保育園の職員・保護者を対象に実施しました。併せて、今後中・長期的に見てワークシートを使った学習、出前授業、中学校での部活支援をどのような形で進めていくべきかについて関係者間での意見交換を行いました。

NPO は今年も引き続き「輪中会議の開催」、「新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会の運営」、「西新小岩三丁目の勉強会の支援」、「地域の小・中学校・保育園での出前授業や部活の支援」を継続して実施してまいります。そして皆さんと一緒に洪水のリスクと賢く共生しながら親水まちづくりの実現に向かって努力してまいりますのでよろしくお願いします。



輪中会議の意義と次への期待

加藤 孝明

東京大学生産技術研究所 准教授

1. 防災への社会的関心は実は大きい

2017年2月18日（土）、文部科学省主催「ぎゅっと防災博」が開催されました。「1日でぎゅっと防災・減災が身につく博覧会」と謳う一般市民を対象とした啓発イベントでした。私たちも加藤研究室として出展し、新小岩北地区での活動についても先駆的「防災【も】まちづくり」の事例として展示を行いました。今回、上平井中理科部OBの中村隆三君にも説明者として特別参加してもらいました。来場者アンケートでは、中村君の的確、明快な説明が高く評価されていました。

これまでの感覚では、国の主催、しかもテーマが防災といえど、来場者はせいぜい300名、しかも高齢者というのが相場観です。しかし今回のイベントは（いい意味で）予想に反して、ファミリー世帯、若い世代を中心に3,000名以上の来場者で賑わいました。文科省がお土産用に準備した1,000個の粗品は午前中だけで配布し終えてしまったほどでした。従来、防災関係組織を通して動員しますが、今回は、SNSやインターネット上で広報したとのことでした。

今まで防災をテーマとした活動では、高齢者しか集まらない、偏った層しか集まらない、ファミリー層や若い世代が参加してくれないという嘆き節を耳にします。しかし今回のイベントを見る限り、実はそうではなく、潜在的には防災に関心のある人は多いにも関わらず、これまでそれを掴み損ねていただけだということかもしれません。

新小岩北地区での活動でも、これまで輪中会議を通して緩やかな地域内での連携が図られていますが、もっともっと多様な層に参加してもらえる可能性があるのではないかと痛感しました。



ぎゅっと防災博の様子（2017年2月18日）

2. 「防災【も】まちづくり」をすすめるために必要な「4 + 1」のキーワード

「防災【も】まちづくり」の成功の秘訣が以前よりもまた少し明確に見えてきました。ここで共有したいと思います。「防災【も】まちづくり」をすすめるためには、4 + 1つのキーワードが必要だと考えています。「総合性」、「内発性」、「自律発展性」、「市民先行・行政後追い」、このキーワードはこれまでの新小岩北地区の活動で登場してきたものです。今回は、さらに「多様性」を追加したいと思います。

「防災【も】まちづくり」をすすめるためには、防災「だけ」ではなく、他の地域課題、他の目的もあわせて考えていく必要があるという「総合性」、自分たちが必要と思うから、やりたいと思うから活動するという「内発性」、さらに雪だるまが転がりながら大きくなるように活動をしながらその内容が膨らんでいくという「自律発展性」、この3つのキーワードが活動の中に自然な形で埋め込まれることが成功の条件だと思います。さらに、新しいモデルを創造するためには、市民が先行して行政が後を追って支援するという型（市民先行・行政後追いの型）が必須のようです。すでに新小岩北地区の活動は、4つのキーワードを満たしていると思います。いやいや、新小岩北地区での経験、活動を通して導かれたキーワードなので、満たしていて当たり前とも言えます。

最近、「総合性」、「内発性」、「自律発展性」が今後、持続、発展していくためには何が必要かと考えていました。そこで登場したのが「多様性」です。参加者、参加組織、それらのマインド・キャラクター、活動内容といった様々な側面からの「多様性」、それが総合性、内発性、自律発展性を下支えすると考えています。今後、輪中会議を核に「多様性」が高まる方向で展開されることが期待されます。



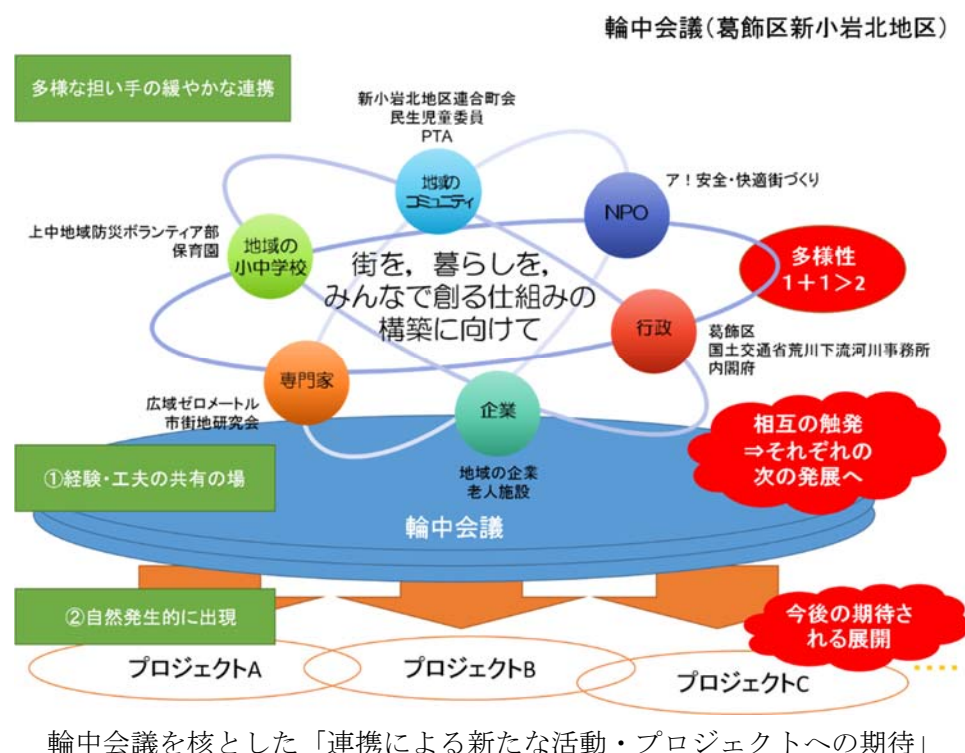
防災【も】まちづくりを支える4つのキーワード+2

3. 輪中会議の意義とこれからの期待

防災【も】まちづくりを進めていく中で、それぞれの限界を理解した上で、みんなの力がひきだされるシステム、状況が自然な形で地域社会の中で創り出されていくことを理想とし、活動が持続発展することを期待しています。

これまで輪中会議は、多様な参加者が経験、工夫、悩みを共有する場として、また緩やかに連携する場として機能してきたと思います。中でも立場の違う多様な参加者が情報共有、議論を通して相互に触発し、それぞれの次の発展につながっていったのではないかと感じています。多様性が 1+1 を 2 以上にする効果を生み出してきたと感じます。

輪中会議は、何かを行うことに目的に開催されるものではないと理解しています。輪中会議での相互触発を元にして、異なる担い手の連携による新たな活動・プロジェクトが自然な形で生まれると良いと思います。輪中会議発の新たなプロジェクト・活動、これが今後の輪中会議の一つの方向性ではないかと思っています。

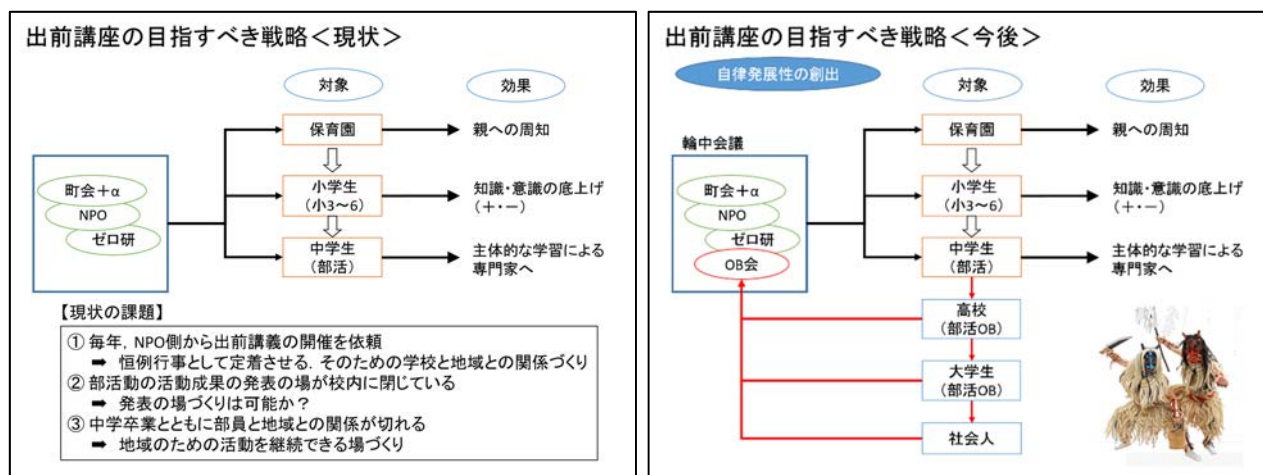


4. 連携による新たな活動の一例：学校＋町会＋NPO＋広域ゼロメートル市街地研究会

すでに保育園、小学校、中学校を舞台に、学校＋地域＋NPO＋広域ゼロメートル市街地研究会の連携が継続的に行われています。保育園での出前講義によ

る親御さんへの啓発・周知，小学校での出前講義による知識・意識の底上げ，中学校での地域ボランティア部の活動支援による主体的学習を通じた専門家？の養成がすすめられています。すでにこうした活動が始まってから数年経過しており，確実に地域の力につながっていると思います。今後，さらに活動にひと工夫を加えることによって，未来を拓く布石になるとよいと思っています。

「地域づくり」は「人づくり」と言われます。未来を支える人づくりという視点を組み込むことも可能ではないかと感じます。



出前講座のこれまでとこれから（案）

5. 価値ある未来を地域社会に，そして世界に

輪中会議草創期には，「持ち寄りの共助」という言葉が登場しました。しかし今は，持ち寄るだけではありません。持ち寄ることを通してそれが2倍にも3倍にもなり得る予感を感じます。

「価値ある未来を地域社会に，そして世界に！」

今，芽生えているみなさんの創造的な取り組みを次の世代へ，そして世界へつなげられるとよいと感じています。

浸水リスクと賢く共生する親水都市

～浸水対応型市街地「水辺ルネッサンス構想（仮称）」実現に向けて～

加藤 孝明

東京大学生産技術研究所 准教授

「浸水と親水」．ダジャレ的キーワードです．これも活動の初期にでてきた言葉です．最初はダジャレでもありましたが，実は，日頃，親水性の高い暮らしをしている人は浸水リスクに対する意識も高いという研究結果がでています．親水性を高めることが防災につながっています．

未来を目指して「浸水対応型市街地」を創ろう．仮称として「水辺ルネッサンス構想」と名付けてみました．今ひとつ，古臭い，ダサいという意見もありますので，別の名前を今後，みなさんと考えたいと思います．すでに東京都（2016.12），国土交通省（2016.4）のしかるべき場でプレゼンテーションを行っています．

2017年1月8日（日）朝日新聞朝刊にこんな記事が掲載されました．新年早々の防災特集記事「大災害，都市は耐えうるか」が1面，3面に掲載されました．中川七曲がりの華麗な蛇行の空撮で始まるこの記事の中で，御年80歳のある町会長がこんな格好いい言葉を残しています．

「都心に近く、リスクはリスクとしてきちんと取り組めば東京で一番いい街になる。100年後、200年後のことを考えたい」。

今改めて見ても読んでも格好いい。さらにこれに続き，地域で長年専門家として携わるある准教授の言葉が続く．

「気候変動が深刻化したとき、遅れてきた20世紀の負の遺産と言われないうようにしたい」と言う．雪国で「一面雪景色」というように「一面水景色」と呼んでやり過ごせるほど（十分に備えた状態）になるのが理想だ．」

キーワード「一面水景色」が活字媒体でメジャーデビューしました．

「浸水対応型市街地」とは，たとえ大規模水害が発生したとしても，大した被害はなく，迅速に復旧にできる市街地のことを意味しています．簡単に言えば，浸水したとしても大丈夫な市街地です．浸水する可能性を見越し，被害が少なく，かつ，すぐに復旧できる建築物を集積し，ライフスタイルで生活することによって市街地の中に水害リスクを織り込んでいこうという構想です．高度経済成長期のたかだか15年程度の市街化によって現在の浸水に脆弱な市街地の原型は作られました．20年，30年先をにらめば，浸水に対応できる市街地を創れるのではないかと確信しています．

この地域には、豊かな河川空間があります。スケール感でいえば、パリのセーヌ川と同じです。むしろセーヌ川よりも魅力的な蛇行であり、セーヌ川以上の美しい景観を造り出せるに違いないと感じています。これまでこの世界に誇れる素敵な水辺空間は、ある意味放置されてきました。今こそ、親水に焦点をあてて、この魅力的な資源を活用しながら、同時に浸水に対応できる市街地を創り始めるときではないかと思います。親水をエンジンに、浸水対応型市街地を実現していけるのではないかと考えています。

気候変動に伴う水害リスクの増加に対応する、世界に向けた日本発の新しいモデルを新小岩から発信すべきだと思います。

「価値ある未来を地域社会に、そして世界に！」



中川七曲の美しい蛇行。世界に誇れる水辺空間



浸水対応型拠点建築物デザイン

輪中会議と全国まちづくり会議

そして、まちづくり意識の共有について

土肥 英生

(認定 NPO) 日本都市計画家協会

輪中会議での、程良い、参加者の距離感と、様々な地域のまちづくり活動に関する情報交換を楽しみに会議に参加し、こうした適切な距離感と協力関係の育まれる、まちづくりの担い手の交流の場に参加できることに感謝しています。

(NPO) ア！安全・快適まちづくりのメンバーそして、町内会の方々、区の方々、大学の研究者などの、様々な方々が創りあげた信頼関係が、こうした活動の基礎になっており、輪中会議に参加する度に、地道で継続的なコミュニケーションから、まちづくり意識が共有されてきていることを実感しています。

さて、(認定 NPO) 日本都市計画家協会では、「全国まちづくり会議」は、全国でまちづくり活動を行っている人や団体が一堂に会し、情報の交換・交流を通じ互いにつながり連携することで、日本各地のまちづくり活性化を図ることを目的として、2005 年に東京日比谷公会堂と工学院大学新宿キャンパスにおいて開催された第 1 回の会議から、12 回の会議を開催し、延べ 1 万人を超えるまちづくり関係者が集ってきました。

輪中会議が新小岩北地区のまちづくりに関わる方々が集う会議とすれば、全国の街づくりの担い手が集う交流会議です。

第 13 回の『全国まちづくり会議 2017 in 横浜』は、平成 29 年 10 月 7 日（土）、8 日（日）の 2 日間、テーマをまちづくりの新しい価値 ～多様性と交流から生まれるイノベーション～（仮）と題し、横浜市立大学金沢八景キャンパス YCU スクエア（横浜市金沢区瀬戸 22-2、京浜急行線「金沢八景駅」下車徒歩 5 分）にて開催されます。

今年は、次に挙げるような（これでも全体の一部です）、魅力的なフォーラム企画の検討が進められています。

- 横浜の都市デザインを今レビューする
- 市民力を引き出す工夫：まち普請事業の成果とこれから
- こどもが自ら考える地域づくり
- ICT を活かしたまちづくり
- クリエイティブシティ
- 郊外まちづくりと大学の拠点活動
- みなとまちづくり（UDC-SEA）
- エコロジカル・デモクラシーの可能性

また、これ以外にも、ディープな横浜を体験できるエクスカーション（街歩き）や、交流会などもあります。

新小岩北地区からは少し遠いですが、『全国まちづくり会議2017 in 横浜』に参加し、また、違ったアプローチでのまちづくり活動や様々なまちづくりの担い手と、まちづくり意識を共有し、交流する機会をもってはどうかと考え、案内いたします。

6月17日には、出展公募も開始致しますので、（認定NPO）日本都市計画家協会ホームページ（<https://www.jsurp.jp/>：新ホームページに移行しました）をご参照ください。



輪中会議の様子

空から見た新小岩北地区

中村 仁

芝浦工業大学 教授

今から3年以上前になるが、2013年12月、荒川下流河川事務所とその関係機関、自治体の合同防災訓練の際に、国土交通省関東地方整備局のヘリコプターに搭乗する機会があった。高度600mくらいから斜めに地上を見ると、立体的な特徴が浮き彫りになって見えてくる。「川があって、街がある・・・」、東京低地の上空を通過する際に感じた印象である。



西新小岩三丁目町会勉強会報告

船山 吉久

水害時避難用高台整備勉強会 事務局

西新小岩三丁目町会とNPO法人「ア！安全・快適街づくり」は、これまで十三年以上にわたり、東部低地帯の地震時水害を軽減するために、行政機関のほか大学や近隣町会などと協働して活動を行ってきました。その結果、浸水に備えた水位標の設置、ゴムボートの普及活動、新小岩公園高台化の葛飾区都市計画マスタープランへの位置づけなど、一定の成果を挙げてきました。

しかしながら、実現化を目指したスーパー堤防は、区画整理を伴う大規模な事業であり、相当な年月を要することが判明したため、平成25年から、明日来るかも知れない大地震時におけるもしもの水害に備えるため、当面、緊急避難場所としての高台の整備を目指すことにしました。

そこで、西新小岩三丁目町会の有志住民は、NPO法人「ア！安全・快適街づくり」の協力のもと、高台整備の実現に向け、平成25年8月に東京都都市づくり公社から「水害時避難用高台整備勉強会」としてまちづくり支援事業の認定を受け、高台整備の勉強会と活動を行ってきました。

勉強会は、基本的に毎月1回第一土曜日に行い、25年10月より29年2月まで計32回実施されました。それぞれの勉強会の概要は次のとおりです。

○第1回勉強会（H25. 10. 5）

これまでのスーパー堤防事業化活動の総括と今後の勉強会のテーマについて

○第2回勉強会（H25. 11. 2）

葛飾区の地震火災時及び水害時の避難場所の現状と課題について

○第3回勉強会（H25. 12. 7）

葛飾区職員による葛飾区の過去の大洪水と水防計画について講義

○第4回勉強会（H26. 1. 11）

荒川下流河川事務所長による東日本大震災の教訓とより安全な避難方法やスーパー堤防整備計画の現状について（河川防災ステーションの紹介）

○第5回勉強会（H26. 3. 1）

葛飾区の西新小岩避難場所計画の問題点と小・中学校を避難場所とする要望の検討

○第6回勉強会（H26. 4. 5）

東新小岩7丁目町会長による同町会の先進的な共助体制と防災活動について講義

○第7回勉強会（H26. 5. 17）

勉強会が土木学会市民普請支援事業に採択されたことの報告とその助成金を活用した紅白旗配布による共助体製造りの提案、河川防災ステーションのスキームの説明

○第8回勉強会（H26. 6. 7）

土木学会市民普請支援事業の助成を活用した赤旗白旗の作成と配布方法について提案、河川防災ステーション整備に伴うコミュニティ施設や避難施設の要望について

○第9回勉強会（H26. 10. 4）

地域の共助体制を強化する赤旗白旗事業の進め方と地震水害時の避難方法及び河川防災ステーションについての勉強

○第10回勉強会（H26. 11. 8）

「第7回輪中会議（H26. 10. 19）」の報告と「東部低地帯の地盤と中川左岸堤防について」の勉強

○第11回勉強会（H26. 12. 6）

「浦安液状化被害状況」と「西新小岩1, 2丁目の中川沿川都有地に予定されている緩傾斜型堤防整備事業の西新小岩3丁目住民生活への影響について」の勉強と「東京都都市づくり公社への勉強会中間報告の提出について」の説明

○第12回勉強会（H27. 1. 17）

「河川防災ステーションの制度と避難広場計画の課題について」の勉強と「勉強会中間報告の葛飾区都市施設担当部長への説明」の報告

○第13回勉強会（H27. 2. 7）

「西井堀を埋め立て緑道整備を区が実施した経緯」の説明と「河川防災ステーション避難広場に望まれる施設、災害時避難の新たな考え方、西新小岩避難場所や避難路等の可能性、新小岩地域浸水被害軽減策を考える」をテーマにした勉強

○第14回勉強会（H27. 3. 7）

「西新小岩地区の地盤高や地形等を踏まえた避難経路」についての勉強と「河川防災ステーションと緩傾斜型堤防の整備を前提とした水害に強いまちづくりの施策について、第8回輪中会議（H27. 3. 28）で発表する勉強会提言」を作成

○第15勉強会（H27. 4. 11）

「第8回輪中会議に参加し勉強会の成果報告を行った感想と、葛飾区と東京大学加藤研究室の共同調査研究「浸水対応型市街地について」の報告

○第16回勉強会（H27. 5. 2）

これまでの勉強会の成果を踏まえた勉強会提言の確認と静岡市の津波避難デッキ見学の提案

○第17回勉強会（H27. 6. 6）

勉強会提言に含める新小岩地域の輪中化の考えや現状地盤高を考慮した避難ルート of 勉強

○第18回勉強会（H27. 9. 5）

勉強会提言の柱となる「新小岩地域の輪中化」、「新小岩中学校を浸水しない避難場所にする」、「西新小岩3丁目からの避難経路の整備」の勉強、津波避難施設見学会の説明

○第19回勉強会（H27. 10. 5）

前回勉強会を踏まえた「提言Ⅰ 新小岩北地域の輪重構造への整備」、「提言Ⅱ 新小岩中学の浸水防止策」、「提言Ⅲ 西新小岩3丁目からの避難経路整備」の勉強、津波避難施設見学会の説明（日程の変更等）。

○第20回勉強会（H27. 11. 7）

11月12日に葛飾区より「新小岩公園防災高台整備事業」計画の説明があることと10月27日に荒川5区が広域避難対策協議会を設置したことの報告。勉強会提言の「提言Ⅳ 河川防災ステーション整備にあたっての要望主旨」、「提言Ⅴ 関連・付帯要望」の勉強

○静岡市津波避難施設見学（H27. 11. 20）

清水駅周辺の津波避難施設及び三保・折戸地区の津波避難タワー等を見学、静岡市防災課職員による、津波高さと避難施設を示した津波避難マップ及び各地区の地形や津波特性及び鉛直避難の考えや方法についての説明。

○第21回勉強会（H27. 12. 7）

葛飾区より11月12日に説明があった「新小岩公園防災高台整備事業」と11月20日の「静岡市津波避難施設見学」の報告。勉強会提言の「前文」と「提言Ⅳ 河川防災ステーション整備にあたっての要望」、「提言Ⅴ 関連・付帯要望」等の再検討

○第22回勉強会（H28. 1. 16）

「提言Ⅴ生活圏域に係わるその他要望」における帰宅困難者対策と新小岩北地域公共施設整備に合わせた防災対策について勉強

○第23回勉強会（H28. 2. 6）

提言の「前文」、「Ⅰ 新小岩北地域の輪中構造への整備」、「Ⅱ 新小岩中学の浸水防止対策」、「西新小岩三丁目からの避難経路整備」、「Ⅳ 河川防災ステーション整備にあたっての要望」、「Ⅴ 関連・付帯する要望」について、最終案のまとめに向けた検討

○第24回勉強会（H28. 3. 5）

提言の最終案について確認。勉強会提言を3月15日に葛飾区へ提出する時や3月20日の輪中会議で発表する際の役割について検討

○第25回勉強会（H28. 4. 2）

勉強会提言を葛飾区に3月15日に提出したと3月20日の輪中会議で発表したことの報告、

新小岩北地域公共施設を水害時の避難施設として多目的利用できるよう葛飾区に要望することを決定

○第26回勉強会（H28. 5. 21）

新小岩北地域公共施設に対する町会要望を、4月12日に葛飾区政策経営部に行ったことの報告。

勉強会提言に対する葛飾区回答案があまりにも総括的で抽象的なため、より具体的な回答を要望することを確認。熊本地震の教訓について意見交換。

○第27回勉強会（H28. 6. 4）

勉強会提言に対する区の訂正回答案について議論。各提言に対する回答に訂正されていたため、一部修正の上、勉強会として基本的に受け入れることを確認。5月31日に行われた区の新小岩北地域公共施設の説明会では、防災施設が具体的に盛り込まれていないため、勉強会として意見書を提出することを確認。

○第28回勉強会（H28. 8. 6）

勉強会提言に対する区の訂正回答文を、正式に決定した文書番号付きの回答文として受理することを決定。新小岩北地域公共施設計画について、地元要望を反映させるための地元説明会を開催するよう要望すること決定。

○第29回勉強会（H28. 9. 3）

区の正式回答文を、9月24日（土）17時に勉強会会議室で受理することを決定。新小岩北地域公共施設計画について、区が週末に勉強会に来て説明することが難しいということを受け、9月7日11時に区へ赴いて新任部長から説明を受けることを決定。荒川流域5区“広域避難勧告”について勉強。

○第30回勉強会（H28. 11. 5）

新小岩北地域公共施設整備計画について、区が同施設を2階から3階にし防災備蓄倉庫を設置する検討を進めていることを報告。勉強会提言の施策の実現には時間を要するため、大学や中学など今ある施設を一時避難施設として利用できるよう検討すべきとの意見が多く出された。

○第31回勉強会（H28. 12. 3）

荒川流域5区“広域避難勧告”や区の水防・避難計画で示されている広域避難計画では、地震時水害の対応が抜けており垂直避難が検討されていないのは問題であるとの意見が出された。

○第32回勉強会（H28. 2. 4）

勉強会の新しいテーマとして、町会の水害時避難計画を作成することを決定し、地区内で垂直避難が可能な建物を地図上に表すことから始めることを確認。

新小岩北地域公共施設整備計画について、区の地元説明会が3月以降となるとの報告。3月26日の輪中会議において、勉強会の「今年度の成果とこれから」について渕井リーダーが発表することを決定。

勉強会の活動をとおり、これまで町会の防災体制や区の水防計画の課題に取り組み、区の水防計画の見直しや新小岩公園の高台化の必要性について葛飾区や荒川下流河川事務所へ要望するとともに輪中会議で勉強会の提言を発表してきました。その成果として、平成27年12月の「新小岩公園防災高台整備事業」が決定されました。さらに、活動の集大成として平成28年3月15日には葛飾区へ勉強会提言を提出して平成28年9月24日に葛飾区より回答を受理し、当初の勉強会の目標を達成しました。

今後は、NPO法人「ア！安全・快適街づくり」と協働して、当面、地震時水害にも対応できる垂直避難を考慮した町会の避難計画を作成するにしています。また、新小岩北地域公共施設計画において、災害時の避難所として備蓄倉庫や一時滞在施設を設けるよう区に働きかけ実現を図る活動を継続します。さらに、勉強会提言が、行政の災害に強いまちづくりの施策に反映され、可能なものから一つひとつ着実に実現されるよう注視しながら必要な活動を継続していくことにしています。



葛飾区からの回答書を
受理する渕井リーダー



勉強会の様子

28 葛都調第 234 号

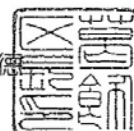
平成 28 年 9 月 23 日

水害時避難場所高台等整備勉強会

代表 淵 井 恵 子 様

葛飾区長

青 木 克 徳



水害時避難場所高台等整備勉強会の提言について（回答）

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、平素より、本区行政にご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私たちのまち、葛飾区は水害に対し脆弱な地勢であり、大規模水害対策は非常に重要な取り組みであります。区といたしましても、先般発表した「新小岩公園の高台化」など様々な取り組みを行っておりますが、こうした取り組みは行政だけで実現できるものではなく、地域の皆様や関係機関等と一体となって進めて行くことが不可欠です。

こうしたなか、地域の皆様が、平成 25 年から 2 年余に渡る活動を続けられてきたことは、大変心強く、また深く敬意を表するところであります。

いただいたご提言は、大胆な発想による広域的な対策や、日々の暮らしにつながる身近な課題など様々なものがあります。区といたしましては、ご提言の趣旨や考え方、また具体的な提案など、今後の大規模水害対策の取り組みにおいて貴重なご意見として参考にさせていただきます。なお、各々のご提言についての区の考えなどは別紙のとおりです。

今後とも、本区行政にご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

（葛飾区からの回答書 1/4）

I 新小岩北地域の輪中構造への整備

「新小岩、奥戸地域全体を輪中構造とし、浸水被害を軽減させる」という大胆な発想で、この地域の南側を走るJR総武線が、主に盛土構造となっていることから輪中構造として考えられたものと思います。

実際に輪中構造として完成させるためには、ご提言にある平和橋通りのアンダーパスなどの空間を、耐水圧を考慮した上で遮水できる仕組みにする必要があります。各々の施設で設置できるのか、検討する必要があります。また、破堤が予想される状況では、広域避難のために道路等の移動空間を最大限活用する必要があります。破堤・浸水、そして広域避難の状況に合わせ、どの時点で道路等の移動空間を締め切るか、といった課題も考えられます。

ただ、現実には大規模水害が発生した際、私たちが全く想定していない破堤・浸水状況になることも十分考えられます。状況によっては、ご提言のような大胆な対策が有効な対策になる場合もあると思いますので、そうした際の選択肢の一つとして、参考にさせていただきます。

II 新小岩中学の浸水防止策

災害時に、避難所がその役割をきちんと果たし、さらに避難された方々ができるだけ快適に過ごせるようにしていくことは、大変重要なことだと考えます。

長期にわたって避難生活を送る場合を想定したとき、大規模水害時においても、浸水しない避難所があることは、地域の災害対策においてとても効果的なことであります。

お話しのように、敷地を含め学校全体が水に浸からない形になれば、救助や救援、復旧において大きな効果を発揮すると考えられます。

ただ、外周部の盛り土や浸水防止壁・フェンス等の設置を考えると、平時の学校利用への影響などを十分に考える必要がありますし、実際にこうした整備を行うには、現在の施設との取り合いや施設の維持管理の面ではどうか、といったことや、整備費用の面などについても十分な検討が不可欠です。

こうした大きな取り組みになることから、ご提案につきましては、学校の改築・改修などの機会を捉え、改築・改修についての様々なご意見をいただくなかで議論をしていくものと考えておりますが、災害対策面での貴重なご意見として参考とさせていただきます。

(葛飾区からの回答書 2/4)

Ⅲ 西新小岩三丁目からの避難経路整備

Ⅳ 河川防災ステーション整備にあたっての要望

災害対策にあたっては様々な被害を想定しておりますが、実際の災害が想定通りにならないことも十分に考えられます。

こうした観点から、一つの対策だけでなく、いろいろな対策を考えておくことは、防災性を高めるうえで、とても大切なことです。

避難経路についても、多くの経路を用意しておくことで、実効性のある対策につながってきます。ご提案の避難経路につきましては、新小岩公園・中川の堤防の整備などを進めて行く上で、案として検討していきたいと考えます。

一方、ご提案の河川防災ステーションの活用についてですが、河川防災ステーションは、災害時に水防活動に必要な緊急用資材の備蓄や搬出入などの作業場所などで活用するものです。その中には、一般住民の避難場所としての活用も掲げられており、今後、整備に向けた取り組みが進む中で、避難場所としての新小岩公園全体の活用の仕方を含め、検討して行きたいと考えます。

また、災害時の活用が期待できる防災ステーション型自動販売機や水素ステーションの設置のご提案につきましても、こうした検討の中で、積極的に検討してまいりたいと思います。

Ⅴ 関連・付帯する要望

1 新小岩公園高台化整備事業

新小岩公園の高台化にあたっては、避難経路の確保等についても検討いたします。

2 新小岩北地域公共施設整備事業関連

現在、区で検討を進めておりますが、整備にあたっての基本方針の中で、荒川のハザードマップの浸水深を踏まえ、防災に備えのある安全な施設を整備することとしております。

(葛飾区からの回答書 3/4)

3 その他の要望

- (1) 中川堤防天端へのスロープ設置
- (2) 間栗公園、間栗ポンプ所跡地の盛土復活
- (3) 間栗ポンプ所跡地から蔵前橋通りまでの間に安全歩行者空間を
- (4) 中川堤防の、旧中川河道（軟弱地盤）部を再確認し、堤防補強工事を

いずれも、東京都所管に関連していますので、直接お答えすることはできませんが、関連する事業の進捗にあわせて、要望等を検討したいと思います。例えば、中川堤防へのスロープ設置は、現在、都が進めている緩傾斜型堤防整備事業にあわせ、区としても要望していきたいと考えています。

南極昭和基地で考える自然環境に対する心構え

岡田雅樹

第 58 次南極地域観測隊 越冬隊長

2016 年 12 月 24 日に南極昭和基地に到着して、早半年近くが過ぎました。2 月 15 日からは、越冬隊員 33 名での生活が始まり、隊員以外の人には 1 年間会うこともできない環境に置かれ、はじめは不慣れな生活に落ち着きが見えるようになるのには一か月ほどかかりました。2 か月、3 か月と時を経るに従い、なんとなく慣れ親しんだリズムが出来上がってくるのも不思議な感じがします。

そのような折、5 月 22 日南極教室というイベントがあり、久しぶりに二上小学校の子供たちに南極の自然を伝えることができる機会に恵まれました。このインターネット時代、南極昭和基地から動画を交えて、オーロラやブリザード、ペンギンなどの話をし、体育館いっぱいの児童の大歓声を聞くことができるというのは、やはり技術のおかげだと実感するところです。

初めて南極に来た隊員にとって昭和基地は、未知の世界であり、33 人の孤立環境は恐怖ですらあるものです。そのような大きなプレッシャーのなかで安全を考え、与えられた任務を年間計画に従って、着実に遂行していくのは、非常に大きな緊張と思慮そして、コミュニケーション力を必要とする作業になります。一つの作業に関する専門家は自分ひとり、後のメンバーは、“ど素人”という状況で、チームを作り実施しなければならない作業を完遂するためには、手順から勘所まで素人に説明し、理解してもらわなければなりません。逆もあり、自分には全く経験のない作業を手伝わなければならない場合も多々あります。

中でも基地の危機管理が隊員にとっては最大の優先事項ですので、消火ホースを持ったこともない隊員が、毎月消火訓練を行い、レスキュー訓練を繰り返し、医療講習を受け、いざという時のために、役割分担と連携訓練を繰り返すということが、隊員に求められる最も現場に近い日常となっていくます。もちろん、中長期的に必要な計画と改善は一つの観測隊次を超えて、引き継がれ、改革されて行きます。この中長期的な改善は観測隊の経験から生かされるものもありますし、新技術の導入によって一気に進む場合もあります。

6 月という時期はちょうど越冬の折り返し点であるミッドウインター祭があり、これまで国内にいたときに受けてきた事前の学習と訓練が徐々に体にしみこんでくるのがこの時期ということも言える時期です。オーロラに歓声を上げ、ブリザードに驚く気持ちは、子供たちだけのものではなく、隊員自身もわずか数日前に自らの身をもって感じた気持ちでもあります。今、隊員は、各自が担当する南極教室の準備をしながら、これまで身に付けてきた技術、訓練、知識を見直

すとともに、感動をどう伝えればよいか悩んでいることと思います。そして、厳しい自然環境のなかで、生き抜いていくためにはどうしたらよいか、日本に帰ってからでも考え、伝えてくれるのではないかと期待しています。（5月28日記）



気温 -10°C の中でレスキュー訓練をする隊員たち。この日は、15名あまりの隊員がクレバスから搬出訓練を行いました。



31日から太陽が地平線（水平線？）から昇らない極夜になります。次に日が昇るのはおよそ1か月半後の7月13日です。

学びのほっとステーション 二上小学校



葛飾区立二上小学校
平成29年度 5月号

平成29年5月2日



南極と学校がつながる瞬間

校長 景山 与賜也

新緑の美しい季節です。風薫る、一年で一番さわやかな季節、5月になりました。

さて、本校元PTA会長で第58次南極地域観測隊越冬隊長である岡田 雅樹さんが、日本を離れ南極の昭和基地で勤務されて4か月が経ちました。このたび国立極地研究所の協力を得て、来たる今月22日の6時間目、南極昭和基地と二上小学校とを衛星回線を通じてリアルタイムに結び、岡田さんと子供たちの間で交信を行う「南極教室」を開催することになりました。岡田さんと子供たちとの再会は、昨年11月末本校体育館で行った「南極出発の会」以来です。

岡田さんは、これまで南極に5回行かれていて、越冬隊の経験も2回目です。今回、初めて越冬隊長として赴任されています。岡田さんによると、当初南極に興味をもっていたわけではなく、宇宙開発に興味があり研究をしていたそうです。その関連で、地球の周囲の宇宙環境の研究を行う関係で、オーロラなどのプラズマ現象に興味をもち研究するようになったそうです。大学時代の山登りの経験もあったことが重なり、南極に行って研究活動をするうちに南極への好奇心も膨らんでいったそうです。一つの対象に向かって追究しているうちに、別な対象とのつながりにも気づき、夢が膨らみライフワークになっていく。興味の対象が広がり変わっていったことはむしろ自然の流れでした。そのことが、岡田さんの人生を豊かにしているようにも感じます。岡田さんの話は、子ども達への「キャリア教育」「生き方教育」にもつながると思いました。

3年生以上の総合的な学習では、「進め！南極調査隊」と学校共通テーマを設定し、学習を始めました。南極を通して環境問題にも触れたいと思います。岡田さんから南極の自然や生き物、基地での様子を教えていただく予定です。子供たちからの質問にも答えていただきます。

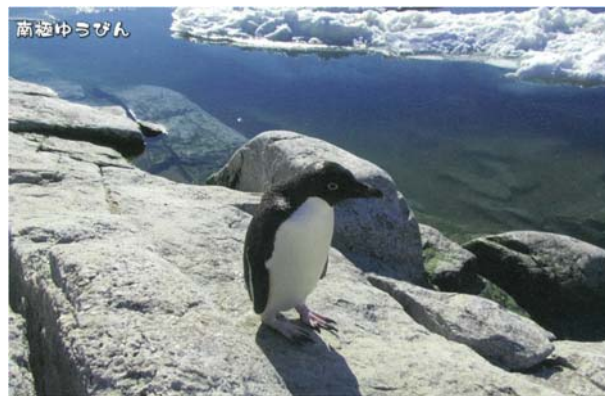
5月22日、南極と二上小学校がつながる瞬間、どんな感動なのか今からわくわくします。南極が身近に感じることでしょう。二上小学校にいたから味わえるこの貴重な瞬間、体験です。

本校は、こんな子どもをめざします。合い言葉は、あ・い・さ・つ！

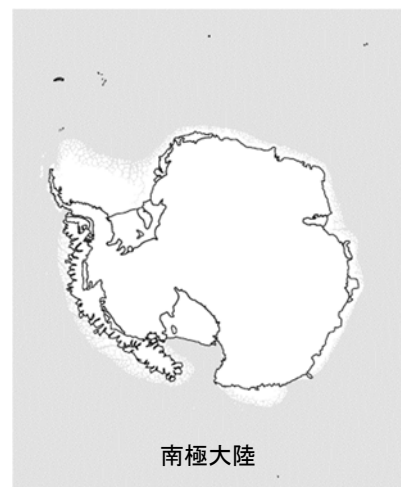
学校目標	あ 明るい子
	い 命をだいじにする子
	さ 最後までやりぬく子（重点目標）
	つ 強い心と体をもつ子



二上小学校児童の寄書を手に南極に立つ岡田さん



南極のペンギン



地域と上中地域防災ボランティア部

布施 実

上平井中学校 校長

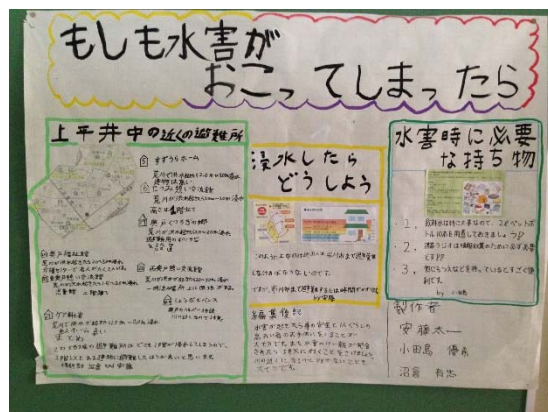
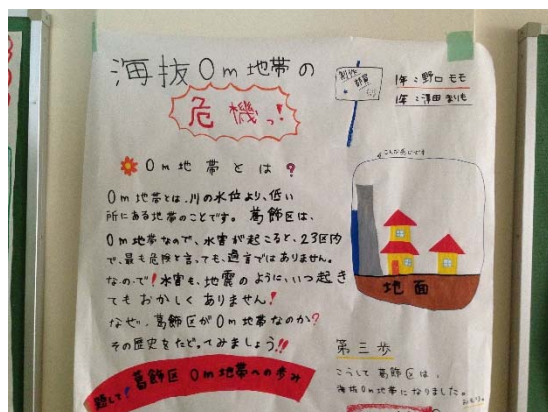
本校の地域防災ボランティア部の前身は理科部でした。平成22年、その理科部に入部したのが卒業生の中村隆三君で、彼は東新小岩7丁目町会会長の中川榮久さんに誘われ地域防災活動に携わり、自分たちの住んでいる地域や防災特に水害に対する備えが必要であると痛感したそうです。そして理科部の生徒達と地震が起きた時のシュミレーションや、どのようにして地域を守るかその対策を考える研究をまとめていったのが地域防災ボランティア部の誕生に結びついていきました。

現在の地域防災ボランティア部は週2回、地域や防災のことを学びながら地道に活動しております。

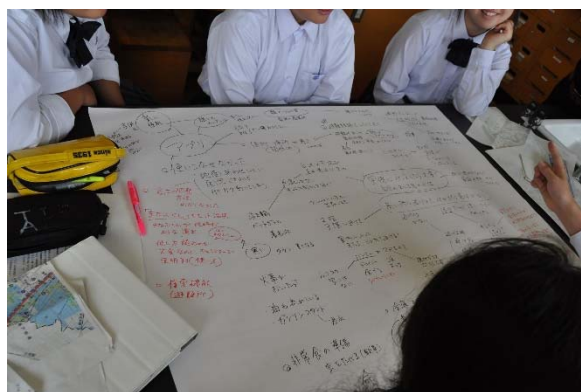
日頃の研究の成果を学芸発表会において発表する内容は、生徒・地域に対して大きなインパクトを与えています。しかし、発表のための活動でなく、休日等を利用し東新小岩町会・上小松町会と結びつき、防災訓練や中学生の目で考えた防災力を発信しています。NPO東大の方々をはじめ様々な方からも、声をかけていただき専門的な指導を受けたり、前記中村先輩も学校まで足を運んでくれ、地域とのつながりに大きく貢献しております。そして地域や先人の諸先輩方と「自分たちの地域を愛し、守る」という共通した目的でつながり、これは上平井中学校として大きな宝物になっています。ボランティア活動を通して地域に貢献していくのは、イベントとしても大変重要なことです。現在地域からの依頼に対して学校が応えていく場面があり、そこから学校と地域の良好なラインが生まれています。地域防災ボランティア部と地域とのつながりは、イベントとしてだけでなく、万が一起こるかもしれない災害に対して、中学生の視点で、「自助」「共助」「公助」を考えていく、つまり地域と同じ視点で地域のことを考えていくという正に「命の繋がりに結びついた真の繋がり」とも言えます。特に避難所運営に対して中学生の力が必要とされている昨今、万が一の場合これらの生徒がリーダーシップをとってくれることは間違いありません。

私も地域での活動や避難所のボート訓練、スマホのソフトを使った自主活動などに参加したことがあります。その時の生徒達の生き生きとした表情に地域の

中の大切な一員なんだという自覚がみなぎっていて、地域の方々と臆せず活動する姿は頼もしく感じました。マスメディアにも取り上げられたりすることは生徒もやりがいを感じるでしょうし、その活動は校長として誇りに感じます。今後増々活動が活発になり、「心の通った街づくりや防災活動」になるよう期待し、活動を支援していきたい。



歴代の部員の活動成果



(左) 消防団員として地域で活動する中村隆三君。今は大学生。

(中・右) 部活動の様子

輪中会議の感想

小豆嶋 勇誓

上平井中学校 地域防災ボランティア部

今回、初めて輪中会議に参加させていただきました。輪中会議では、西新小岩三丁目町会、東新小岩七丁目町会の方々のような地域の人たちや、東大加藤孝明研究室、葛飾区、東京都、内閣府、国土交通省、現役の医師など専門的な方々のお話を聞き、様々な視点から「防災」を見ることができました。お話の中には、新しい情報、専門的な有力な情報、今後の部活で使っていきたい情報など、どれも新鮮で、自分の防災への見方、視点が増えました。

最後の加藤研究室のまとめにあった、「総合性、内発性、自律発展性、市民先行、行政後追い」そして「多様性」。私たち中学生では、大人の方々よりも、情報の発信は限られ、難しい点もありますが、中学生・子供という立場を利用していき、「自律発展」を目指していきたいです。また、製作中のマップでは、小さな子供や高齢者の方々にも見やすく、地域の方々との意見を交流し合って、様々な情報を取り入れ、「多様性」を目指して活動していきます。

また、輪中会議に参加して、地域や専門の方々に質問したりと、交流ができて本当によかったと思います。部員の日ごろの取り組みにも活気が出そうです。本校では、防災訓練に取り組んでいます。医療訓練のお話も聞き、実際に参加してみたいと思いました。地域の方で避難が難しい方にも、協力して行動できるように訓練していきたいと思っています。

今回、輪中会議に参加し、様々な新発見があり、私自身も大きく見方を変えることができました。ありがとうございました。





製作中の防災マップ

地域の方々から学ぶ

渋谷 英一

葛飾区小中一貫教育校新小岩学園松上小学校長

葛飾区小中一貫教育校新小岩学園松上小学校に赴任して、4年目に入りました。毎年、輪中会議に参加させていただいています。今回の第10回輪中会議も、たいへん勉強になりました。この会議の卓越している所は、地域、行政、研究者、小中学校と防災に関わる様々な分野の方が一堂に会していることです。地域代表として、西新小岩3丁目町会勉強会の皆様の報告がありました。平成25年の10月から32回の勉強会を重ねているとのことでした。新小岩中学校の浸水防止対策や防災高台整備にあたっての要望など、葛飾区に具体的な提言をされていることを知ることができました。また、上平井中学校の地域防災ボランティア部の皆さんの活動報告も、たいへん頼もしく感じました。また、行政の取組として、江東5区大規模水害避難等対応方針が示されていることも知ることができました。

毎年、この会議に参加しながら、勤務校で避難所運営会議が開けていなかったことに恥ずかしさを感じていました。ようやく、5月12日に、久しぶりの避難所運営会議を開くことができました。きっかけは、新小岩第6自治会の役員の皆さんからの提言でした。地域の皆さんが声を上げてくださり、たいへん嬉しく思いました。本校は、西新小岩1丁目都営自治会、西新小岩2丁目都営自治会、そして、新小岩第6自治会の避難所になっています。この会議に、各自治会から、20名を越える方々が集まってくださいました。地域の皆様の自然災害に備えたいという熱い思いに心が震えました。9月17日に本校を会場として、避難所運営訓練を予定しています。

学校の取組としては、寺島玄様による6年生向けの講演会、また、3年生対象の地域の防災学習を継続しています。寺島様の新小岩地域の歴史のお話では、「カスリーン台風」についても詳しく説明され、この地域が水害に悩まされてきたことを知ることができました。寺島様のお話は、いつも子供たちの興味をひきつける内容で、新小岩の歴史をさらに詳しく学びたいと思わせる内容です。3年生の防災の学習では、東新小岩7丁目町会長の中川榮久様、防災担当の竹中様、東京大学の皆様などに、貴重なお話をいただいています。

これからも、子供たちの防災への意識を高める活動を継続していきます。

出会いの季節

東原 洋子
上小松町会長

上小松町会は、昨年より子ども見守りの一環として、新学期の一ヶ月間、新一年生が通学に慣れるまでの期間を、登校時に合わせて蔵前橋通りの二か所。二丁目の木曽路の交差点と、北口広場入り口の交差点に、警察から頂いたベストを着用して毎朝、役員三～四人交代で、安全に渡れるよう誘導している。PTAのお母さん方は交代で、通年見守りをされている。

少子化が言われて随分経つが、子ども達の集団登校を目の当たりにして、この地域には大勢の子ども達がいると変に安心をした。子ども達を見ると嬉しいものだ。つい顔がほころぶ。

小さな一年生が、黄色い帽子を頭に背中より大きいランドセルを背負って、小走りに登校していく姿はひよ子みたいに可愛い。下級生を労わりながら、先頭を歩いて行く上級生は頼もしくも、いじらしくもある。

この光景は子ども達の新たな出会いである、一年生にとって、大きな大事な出会いである

思いやり、我慢、頑張ること、やり遂げること等々、子ども達は出会いの中で学び成長していく、全てが良い出会いであるよう祈らずにはいられない。

上小松町会も、先人より受け継いだ大事なコミュニティーを、役員・町会の人々で守り、安心安全の町づくりと頑張ってくれている。

これもご縁であり、出会いでもある。いろいろな方々との出会いがあるが、大切に付き合っていきたい。



歴史が語る新小岩（旧上平井地区）

中川 榮久
東新小岩七丁目町会長
葛飾区文化財保護推進委員

その昔

その昔新小岩地域は葦などが、生い茂る沼地であったようだ、永禄7年（1564）年安房の里見氏が第二次国府台（現千葉県市川市）合戦に敗北し、（天正6年 1578年里見氏滅亡）その残党である礮部土佐守義任が文禄2年（1593）に部下6名を伴いこの地に隠れ住んで土着した、「郷土史研究者赤沢善四郎氏（元西新小岩三丁目町会長）談」

この地に初めて隠れ住んだ礮部氏は中川の北側（渋江・現東四つ木）に居住し、部下6名は上平井地区（現東西新小岩）に居住する、居住者は①小日向②杉浦③山口④清水⑤〇〇⑥〇〇各氏であり、6名中2名は私の記憶忘れである、（この件につき、ご存じの方はご連絡お願い致します）。

江戸時代になり、寛保2年（1742）天明6年（1786）弘化3年（1846）と江戸戸三大洪水に襲われた、江戸幕府は寛保二年八月の大洪水の後10月6日に肥後・熊本藩 藩主細川宗孝に中川・綾瀬川・江戸川・横川・庄内古川・古利根川の普請を命令した、

中川七曲りの改修は地域住民

中川七曲近在には当時200軒ほどが住んでいたようだ、中川七曲付近の改修には、当時の家々の住人が工事に従事していたようだ、

又幕府の命を受けた熊本藩以外に薩摩藩の藩士も在所していたようだった、西新小岩5丁目に関口家が（現在も在所している）有り、屋号を薩摩の家と言われている、現当主健一及び長女両氏談昔（1745年頃と推定）当家に薩摩の侍が長逗留しており、その後薩摩藩の家紋〇に十の字を裏家紋として与えられたそう、

当時の中川七曲改修は薩摩藩士が普請奉行として関口家に逗留していたと考えられる、

ゆえに普請に従事した住人には、名前の下に「ドン」を付けて呼ばれていた（西郷ドン同様）のがその家の屋号となり、昭和25年迄屋号が使用されていた、

モンチッチで有名な関口晃一家は【キンペドン】と称し先祖に（金兵衛）なる人物が存在したと考えられる、又当地の名家町山本家の屋号は【マゴエムド

ン】と称し代々孫右衛門を襲名している、わが中川家の屋号は【シカウシド
ン】である。

度々の大洪水と堤防強化

有史以来たびたび襲われた大洪水地区の治水は徳川幕府に始まり、明治 43 年（1910）東京大洪水その後荒川放水路開削・昭和 22 年（1947）カスリーン台風による大洪水・昭和 34 年（1959）伊勢湾台風襲来その後中川堤防・墨田川堤防・東京湾外郭堤防強化・平成 19 年（2007）中川七曲り堤防強化、親水テラス工事開始現在進行中であり完成後は浸水に強く・親水にやさしく楽しい新小岩地域になることを願っている

賢者は歴史より未来を考える。

愚者は経験より未来を考える。



中川七曲りの親水テラス

年表 歴史が語る新小岩（旧上平井地区）その①

年 号	西暦	関 係 事 項
養老 5	721	この年、下総国葛飾郡大嶋郷戸籍「庚申戸籍」がつくられ、中に「嶋俣」（現在の柴又）の里名が記載されている。戸数は42。
弘長 元	1261	7月3日、落雷のため、上小松（現東新小岩）正福寺の諸堂が焼失する。
永仁 元	1293	関東に大地震あり。死者は2万3千人にのぼる。
正安 3	1301	このころ、下小松（現新小岩）神明宮（天祖神社）が創立される。
応永 5	1398	8月 葛西御厨の田数を調査する。『下総国葛西御厨注文』の記事の中に上平江の地名が見られる。
永享 7	1437	この年、上小松正福寺の第五世法印賢寛が立石南蔵院を再興する。
寛正 6	1465	10月23日、上小松の郷民28名が村内に月待供養の碑を建てる。
応仁 2	1468	この年、僧尊栄が上平井（現東新小岩）上品寺を中興する。
文明 9	1477	上平井上品寺の尊栄法印、奈良橋某と謀り、伏見稻荷（三谷稻荷）を祭る。
天文 元	1538	10月7日、北条氏綱が足利義明および里見義堯を国府台で破る（第1次国府台合戦）。
永禄 7	1564	1月7日、安房の里見氏と小田原の北条氏が国府台で第2次合戦を行い里見氏が破れる。
天正 元	1573	この年、上平井（現西新小岩）の円成寺が創設される。
1 8	1590	8月1日、徳川家康が江戸城に入る。 この年、上小松天祖神社が鎮座される。
文禄 2	1593	この年、安房里見氏の幕下である磯部土佐守義任が波江（現東四つ木）の土地を開墾し、土着する。
慶長 元	1596	この年、僧海秀、上平井村（現西新小岩）の東光寺を創立する。
8	1603	2月12日、徳川家康、征夷大將軍に任命され、江戸に幕府を開く。
9	1604	4月23日、関東に大風雨洪水があり、葛西方面の被害は甚大。
1 0	1605	8月10日、関東に大風あり、上平井の被害が大。
1 1	1606	6月1日、江戸近在に大地震あり。上平井で傾く家が多数。
1 2	1607	3月9日、大風雨で上平井の家屋が破壊される。
1 3	1608	この年、関東郡代伊奈備前守忠次によって、葛西地方に初めて検地が行われる。上平井は戸数10戸。

年表 歴史が語る新小岩（旧上平井地区）その②

年 号	西暦	関 係 事 項
寛永 11	1635	9月27日、将軍家光、上小松村（現東新小岩）付近で鷹狩りを催す。獲物は黒鶴・真鶴が多かった。
正保 4	1646	10月、検地によれば上平井村世帯数は39戸。
慶安 元	1648	9月17日、上小松正福寺並びに青戸宝持寺に御朱印5石を賜う。
承応 2	1653	1月、上平井円城寺が焼失する（翌年3月に法運院日周が再興する）。
万治 元	1658	10月、上小松正福寺に石地藏が建立される。
寛文 3	1663	11月、上平井村上品寺に石地藏が建立される。
	6	1666 8月11日、下小松天祖神社を上小松正福寺の僧永盛が創建する。 9月、上小松正福寺に庚申塔が設立される。また、阿弥陀石仏も建立される。
元禄 2	1689	この年、上平井村円城寺の境内に、日秀が鎮守である七面堂および番神堂の拝殿を修復する。
享保 2	1717	12月、上平井村上品寺の僧伝祐が法流を相続する。（伝祐は再興開山した。）
	4	1719 1月19日、将軍吉宗、西葛西領に鷹狩りの際、上小松正福寺に立ち寄り以後、同寺は御膳所に指定される。
	6	1721 2月3日、吉宗、上小松正福寺付近で鷹狩りを催し、同寺で休憩する。
	10	1725 9月24日、上平井村東光寺に地藏石仏が建立される。
	12	1727 9月24日、上平井村東光寺に地藏石仏が建立される。
	13	1728 11月、上小松村正福寺に宝篋院塔が建立される。
	14	1729 この年、幕命で井沢弥惣兵エが上下割用水（西井堀）を開さくする。
元文 元	1736	3月、上小松村正福寺の役僧が門末80余か寺の起立・年代・由緒等を調査する。
	5	1740 10月、上平井村東光寺に大乘妙典塔が建立される。
寛保 2	1742	7月、幕府は熊本藩主に命じて中川の改修工事を行う。
延享 4	1747	11月8日、上平井村東光寺に道標が建立される。
寛延 3	1750	12月、上平井村東光寺に背面金剛石塔が建立される。
名和 6	1769	9月、上平井村東光寺に三山塔が建立される。
	8	1771 11月、上平井村上品寺に宝篋院塔が建立される。

年表 歴史が語る新小岩（旧上平井地区）その③

年 号	西暦	関 係 事 項
安永 3	1774	6月22日、上小松村正福寺の本堂が大風雨で大破する。
寛政 4	1792	5月、上小松村正福寺の本堂が焼失する（文化元年にも火災あり）。
文化 3	1806	12月、上平井村円城寺に七面及び番神の両堂が相殿として再興される。
1 1	1814	12月、上平井村東光寺に宝篋院塔が建立される。
文政 5	1822	10月、上平井村円城寺に第二十四世日広上人が本堂を再建する。
7	1824	この年、『新編武蔵風土記稿』によると、区内の人家2161戸とある。神平井村は 132戸。
天保 9	1838	11月、上小松村（現東新小岩）三田家裏に道標が建立される。
弘化 元	1844	10月、中山嘉平治が上平井（現西新小岩）に寺子屋「清栄堂」を開く。この年、上平井村天祖神社の社殿が再興される。
3	1846	6月22日、中川及び綾瀬川の堤防が決壊し、大洪水となる。被災者に麦米が配られる（江戸川の水位は一丈二尺に達し、死者 370人余）。
嘉永 2	1851	5月、上小松村（現東新小岩）の年寄甚四郎が幕府から孝心を賞され、松平和泉守を通じて銀三枚が与えられる。
安政 元	1854	12月、上小松村（現新小岩）照明寺が焼失する。
2	1855	10月2日、大地震あり。震源地は葛西亀有という（異説あり）。江戸の被害は、倒壊家屋1万4千、死者7千人に及ぶ。上平井村上品寺閻魔堂が地震で倒壊する。 12月、上平井村天祖神社の境内に、胡録神石祠が建立される。 上小松村照明寺が地震後、再建される。 上平井村東光寺に地震菩薩石像が建立される。
5	1858	10月、上平井村上品寺住職白幡堯音、同寺にて東庭堂塾を開く。
文久 3	1863	10月、上小松村神明宮（天祖神社）社殿が再建される。
慶応 3	1867	1月、幕府は鷹狩制度を廃止し、亀有、上小松の御鳥見衆役宅も廃止となる。
明治 元	1868	4月、大岩二之助が上小松村（現東新小岩）に家塾を開く。 この年、上平井村の東庭堂（寺子屋）を白幡堯音が松蔭から引き継ぐ。 上平井村戸数 139戸。
2	1869	上小松村地福院・西蔵院、神仏分離のため廃寺となる。
4	1871	11月、寺子屋清栄堂開業（上平井村）。
7	1874	1月、上小松村（現東新小岩）に私立盛易学校設立。生徒93名。上平井村（現西新小岩）に私立思誠学校設立。生徒19名。 上平井村戸数 149戸。

年表 歴史が語る新小岩（旧上平井地区）その④

年 号	西暦	関 係 事 項
明治 1 6	1883	4 月、上平井村において円城寺の建物を借りて、初めて公立の平井小学校を設立する。
1 7	1884	3 月、平井小学校校舎新築落成。生徒数32名。
2 0	1887	4 月、上小松村（現東新小岩）に澳門小学校設立。
2 7	1894	12月 9 日、総武線開通（錦糸町－佐倉間）（総武鉄道株式会社）。新小岩駅はなし。
4 3	1910	8 月10日、天明以来の大洪水あり。当地方の浸水、実に13日間に及ぶ。
4 4	1911	4 月、荒川放水路開さく工事着工のため敷地の買収始まる。1 坪 3 円ないし 5 円であったが90銭の低価格の場所もあった。
大正 3	1914	4 月、荒川改修工事のため平井村大字上平井および中平井を奥戸村に編入した。 9 月 1 日、平井尋常小学校新築落成。
4	1915	3 月、上平井実業補習学校設立。
6	1917	5 月、木下川浄光寺（薬師）荒川放水路工事のため現在地に移す。
1 2	1923	9 月 1 日、関東一帯に大地震あり。区内の被害僅少。全壊家屋70戸、半壊家屋62戸、死者火災ともになし。東京府管内の被害は死者59,593人、行方不明10,904人、家屋の倒壊、焼失多く罹災民1,555,770 人に及ぶ。
1 3	1924	10月12日、荒川放水路の通水式挙行。
1 4	1925	3 月、雷（江戸川区平井町）より上平井町（西新小岩）まで城東汽船が開業（綾瀬川）。
昭和 2	1927	5 月、西新小岩徳正寺（天台宗）もと本所押上（墨田区）より移転。
5	1930	10月、荒川放水路開さく工事完了、着工より20年（総工費 3 億 1 1 3 4 万余円）。 12月、上平井耕地整理組合設立。
6	1931	9 月、上平井橋（木橋仮橋）架設。
7	1932	10月 1 日、葛飾区誕生。 12月17日、第 1 代区議会議長に鈴木八左エ門就任（西新小岩 5 丁目）。
9	1934	3 月15日、区議会議長に鈴木八左エ門就任。
1 1	1946	3 月19日、区議会議長に鈴木八左エ門就任。
1 2	1947	3 月、上平井橋（木橋本橋）架設。
1 3	1948	4 月、中川放水路開さく計画なる。上平井町（西新小岩）に事務所を設ける。

年表 歴史が語る新小岩（旧上平井地区）その⑤

年 号	西暦	関 係 事 項
昭和 1 5	1940	12月20日、区議会議長に鈴木八左エ門就任。
2 0	1945	1月27日、B 29機による空襲、高砂・上平井（西新小岩）被害あり死傷者18名。 3月4日、B 29機による空襲、上平井（西新小岩）付近に被害多く死者および重軽傷63名、那須アルミ、大成化工等の工場焼失。 8月15日、終戦。
2 2	1947	6月、平和橋（仮設木橋）竣工。 9月19日、カスリーン台風により、未曾有の大水害おこる。区内の浸水家屋床上52,758戸、床下1,370戸、罹災民 218,251人。
2 3	1948	11月20日、水害で流失した上平井橋改造（木橋）竣工。
2 4	1949	7月30日、区議会議長に町山与一郎就任（東新小岩）。 11月、水害で流失した平和橋復旧工事成る。
2 5	1950	8月8日 区議会議長に町山与一郎就任（東新小岩）。
2 6	1951	12月、二上小学校が上平井小学校の分校として設立（同28年4月独立校となる）。
3 0	1955	2月15日、西新小岩の小宮康助が長板中形及び江戸小紋の作者として無形文化財（人間国宝）に指定される。
3 1	1956	2月、米軍用機、新小岩駅北口付近の民家に墜落、死傷者を出す。 4月、松上小学校設立。
4 1	1966	3月1日、西新小岩1～5丁目、東新小岩1～8丁目住居表示実施。 8月8日、平井大橋（荒川）部分開通（工費14億9000万円）。
4 3	1968	10月、上平井上品寺閻魔像修理。

洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難について

内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（調査・企画担当）付

参事官補佐 多田 直人

主査 吉松 直貴

大方 陽平

1. はじめに

江東5区（葛飾区、足立区、江戸川区、江東区、墨田区）は荒川を中心にゼロメートル地帯が広がっており、洪水や高潮が発生すると、ほぼ全域で浸水すること、また自然排水ができないため、2週間以上にわたって浸水が継続することが想定されています。

江東5区では、この様な大規模水害からの避難について検討を進めているところであり、内閣府においても、これらの取組と連携し、具体的な避難計画の作成の支援を行っているところです。

2. 広域避難について

江東5区内には251万人が居住しており、荒川や江戸川による洪水では、床上浸水が想定される人口は228万人にのぼります。

浸水区域内に多くの住民が取り残された場合、ヘリやボートによる救助にも限りがあるため、電気・上下水道等のライフラインが停止した劣悪な環境のなか、長期間の避難生活を送ることが想定されます。一方、多数の住民が浸水区域外に避難した場合、大規模かつ広域的な避難が必要となり、多数の住民が避難することによる大混雑の発生や移動が困難な住民の避難が課題となります。江東5区は江戸川と隅田川で囲まれ、更に内部を複数の川が流れているため、橋梁等のボトルネックに多くの人が集中することにより大渋滞が発生し、移動に多大な時間が要するのに加え、群集雪崩等の大事故の発生が想定されます。

そのため、様々な避難経路と交通手段（徒歩、自動車、鉄道）を最大限活用する方法や、避難時間の短縮策を検討しています。移動が困難な住民の避難については、避難自体が身体的な負担となることが想定されるため、町会や葛飾区と連携し、住民へのアンケート調査や聞き取り調査により、広域避難ができるのか、できない場合はライフラインが停止した状態で避難生活がおくれるのか等の実状を把握し、移動が困難な住民に対する広域避難の方針について検討を進めています。

内閣府は災害に強い地域づくりに貢献するために、地域のみなさま、町会、ア！安全・快適街づくり、葛飾区と連携して、具体的な避難計画の作成の支援に引き続き取り組んでまいりますので、今後ともご協力をお願いします。

区の水害対策について

葛飾区役所	地域振興部	防災課長	長谷川 豊
		防災課	若林 豊（計画係長）
		防災課	大田 聖家
都市整備部	街づくり計画担当課長		目黒 朋子

○ 近年の水害事例を踏まえた区の対応

27年の常総市での鬼怒川の決壊では、約4,300人の孤立者が発生して救助されました。防災課では、28年11月に常総市への視察を行い、当時の市長の話を聞くなかで、避難勧告等を判断するタイミングや避難情報を住民に的確に伝達する方法の難しさについて、改めて認識させられました。区では、鬼怒川の決壊を受けて、水害時の災害対策本部や水防本部等の配置基準や行動内容について、河川ごとの水位を考慮した見直しを行いました。

28年台風10号による豪雨に見舞われた岩泉町では、氾濫した小本川の浸水によって、高齢者グループホーム「楽ん楽ん」の入所者9人全員が犠牲になりました。区では、要配慮者利用施設（高齢者や障害者の方等が利用される社会福祉施設）が、水害時に的確な避難行動を取れるように、区内の要配慮者利用施設を対象とした説明会を実施して、水害時の避難計画の作成について依頼をしました。説明会後には、複数の施設から避難計画が提出されています。

○ 江東5区での検討経緯

27年には東部低地帯の江東5区が「江東5区大規模水害対策協議会」を立ち上げて、連携して大規模水害時の広域避難について検討を始めました。そして、28年8月には対応方針を取りまとめて、広域避難に対応した江東5区独自の避難情報の発表のタイミング等について整理をしました。

広域避難の具体化に向けた検討を加速させるために、新たに「江東5区広域避難推進協議会」を立ち上げて、現在は内閣府の「洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難検討ワーキンググループ」とも連携をして、検討を進めています。

東新小岩七丁目町会は、内閣府の「洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難検討ワーキンググループ」のモデル地区となり、内閣府での検討内容が実現可能であるか地域レベルで検証しています。

○ 新小岩公園の高台化

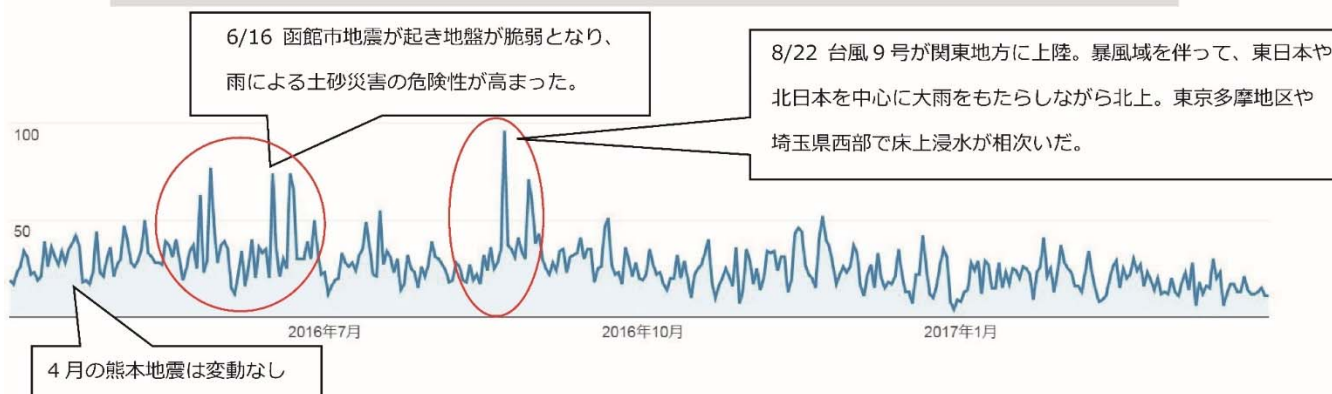
新小岩公園の防災高台整備事業は、国の東京東部低平地帯「防災高台整備事業」を活用し、公募により共同事業者を決定し、地元区民の悲願である新小岩公園の高台化を行っていきます。

NPO ア！のホームページ状況について

古川 修

NPO 会員の古川修です。「NPO ア！安全快適街づくり」のホームページについて、最近の状況含めて運用状況をご報告いたします。

◎ 本年度の Web ページのアクセス状況について



上記グラフは2016年4月～2017年3月31日のアクセス数の推移を示しています。

地震や台風による豪雨で地盤が弱くなり、浸水や土砂災害の危険が高まっている時に、当ホームページのアクセス数が伸びています。かたや、大きな被害をもたらした、熊本地震の際にはとくに動きはありません。安心安全な街づくりのためにどうしていくべきなのか、水害だけでなく、幅広く有益な情報を増やしていければと思います。

「天サイ！まなぶくん」の広がりについて（コラボかつしかまつり参加）

「天サイ！まなぶくん葛飾版」のアプリをリリースして4年半。ここ葛飾から発信された「防災情報を可視化するアプリ」について報告いたします。

NPO 活動の発表の場として毎年実施されている「コラボかつしかまつり」に出展依頼があり「天サイ！まなぶくん」の紹介含めたブース展示を行ってまいりました。



アプリについてまだまだ知らない方も多く、引き続き活動を行っていければと思います。

コラボかつしかまつり 2016

「ダンダンダン 共に創ろう街の未来」参加報告

山上 忠

NPO ア！安全・快適街づくり

○開催日：2016 年 10 月 30 日

○主催者：コラボかつしかまつり

○場所：立石地区センター

○参加者：古川修、山上忠、古川さんのジュニア 2 名

<概要>

主に葛飾区内で活躍している NPO 法人や市民団体などの地域貢献活動団体等と、区民の皆さんや地域に関わりのある方々とが交流し、多様な人たちとつながり合うことで新しい活動が生まれ、地域課題や新しい社会課題をいっしょに考える仲間づくりができるお祭りです。

<報告>

昨年に続き大音響の和太鼓演奏でダンダンダンと賑やかにスタートです。模擬店屋台・ライブイベント・寄席・遊び広場・談話スペース・地域活動発表・展示・ワークショップ・まちづくりシンポジウムなどに向けて幅広い年齢の男女が訪れてきます。やはり風船や菓子を握った幼い子供と若いパパママが祭りムードを盛り上げます。NPO ア！も毎年ブースを借りて、タブレットの天才まなぶくんや教育用防災アプリ、ハザードマップなどを元に訪れる区民に対して日頃の防災活動を PR します。今年も古川さんの幼いジュニア二人には巧みにタブレットを使いこなした応援団として活躍して貰いました。テント屋台の来日シェフの作るエチオピアマトンカレーは売り切れご用心です。



カスリーン台風って知っていますか？

廣木 良司

NPO ア！安全・快適街づくり

昨年から成戸理事長にお誘いを受け、NPO 事務局のお手伝いをしております。

さて、今年度に入り、理事長から、当 NPO 設立 15 年という節目であるし、当 NPO が活動している葛飾区一体でカスリーン台風による大規模な浸水被害が発生して 70 年という節目でもあるから、何かやりませんかと投げかけられました。

さて、皆さんはカスリーン台風ってご存知でしょうか？

1947 年 9 月 11 日にマリアナの西方で台風となり、当時はまだ日本はアメリカの占領下にあり、台風にはアルファベット順に女性の名前がつけられ、1947 年の 11 番目なので K から始まる Kathleen と名付けられたそうです。

この台風、15 日の午前中に浜松の沖合に到達、正午には御前崎沖、午後 6 時には新島付近を通過、午後 8 時には房総半島の館山辺りをかすめ、16 日午前 3 時には銚子の南方 100 キロの海上に去りました。このように、この台風は日本列島をかすめただけで、直撃はしなかったのです。

ただ、すでに停滞していた前線を刺激した上に、その前線に抑えられ、台風の進行速度もゆっくりで、関東地方では広範囲に雨が降り続き、三日間総雨量が 600 ミリに到達した場所もあったようです。

関東地方では利根川の本支流が至る所で堤防が決壊、氾濫し、群馬県、栃木県、埼玉県、東京都、茨城県、千葉県などで、東北地方では北上川が氾濫、岩手県一関市などで被害が出て、死者 1077 人、行方不明者 853 人、浸水家屋 38 万戸を超え、この葛飾区でも、死者 3 人、浸水家屋が 5 万戸を超えたと記録されています。

最近ではゲリラ豪雨と表される局所的に短時間に多量の雨が降る現象も散見され、一時間に 50 ミリ 100 ミリという豪雨も時折観測されるようになりました。

実は三日間総雨量も、土砂災害や洪水被害を発生させる重要な指標となっています。カスリーン台風の三日間総雨量が 600 ミリを超えるという雨は、今の日本でも何らかの被害が発生する指標として捉えている研究者もいます。

今、私たち NPO が活動している地域は、常に海水面より低い地域で、所謂ゼロメートル地帯と呼ばれ、堤防と排水ポンプによって守られている地域です。日頃は意識しておりませんが、その事実をしっかり頭の片隅に置き、いざという時の行動にも役立てる必要があるかもしれません。

閑話休題

地下水のくみ上げによって地盤が沈下し、水のくみ上げ用に設置されてあったポンプが取り残され、この地域がゼロメートル地帯となった生きた証拠として展示されていたことをご存じでしょうか？

東新小岩の東京都第五建設事務所の敷地内にあり、東京都第五建設事務所古井戸として 2012 年 3 月 1 日に葛飾区の有形文化財として登録されました。

現在、この事務所は建て替えの最中ですが、この文化財は、江東区にある東京都土木技術支援・人材育成センターにおいて「ポンプの上部」は真空状態にして保存し、「井戸の地中部分」は、建て替え工事の影響がでないように養生してあるそうです。平成 31 年の秋には建て替えが完了することから、元の位置に復元する予定となっているそうです。復元を楽しみに待ちたいと思います。

シンポジウム開きます

さて、話を元に戻して、成戸理事長の提案を受け、カスリーン台風 70 年の節目にあたり、大規模な浸水被害を起こしたカスリーン台風の記憶と経験を活かすこと、さらに、普段の生活する上では水面や川の流れなどは、心を癒す良い空間ですから、浸水から親水へと、その活用を地域の人たちとともに、しっかり考えるシンポジウムを企画することとしました。

今、地元の町会や葛飾区、さらに広域ゼロメートル市街地研究会の皆様と協働して案作りを始めたところです。

この話が街づくりニュースに掲載される頃には、より具体化したご案内が出来るだろうと考えております。皆さんの参加をお待ちしております。

(予告)
～カスリーン台風 70 年の節目に～
「災害から学ぶ」シンポジウム

第一部「カスリーン台風の記憶と経験の共有」
第二部「浸水から親水へ」

日時：2017 年 9 月 18 日 13:30～16:30
場所：男女平等推進センター（ウィメンズパル）ホール
主催：新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会

平成 28 年度(前期)葛飾区地域活動団体助成事業活動報告

増澤 一郎

NPO ア！安全・快適街づくり

I、始めに

本事業は、平成 24 年度よりそれまでの市民活動団体と葛飾区協働事業から衣替えし、現在に至っています。当 NPO も、平成 23 年 3 月発生した東日本大震災を機に、地元町会・自治会を中心に行ってきた「大水害時における住民との実践的避難活動」を、年少者へも広げ新たに「親子で話し合い語り継ぐ大水害時の避難」をテーマとする講演会・出前授業等を地元小中学生対象に平成 24 年度以降葛飾区の助成を受けて行っています。これは、次代を担う若者に地域が置かれている「ゼロメートル地帯」という特性から生じる事態を日頃から認識し、一朝事が発生した際は、適時・適切に対処する術を身に付け、引き継いで欲しいとの願いが込められています。

平成 28 年度も前年度同様、講演会・出前授業等を行いました。授業を受けた生徒達から「知らなかった、ためになった、これから気をつけたい、もっと知りたい…」等多様な感想が寄せられ、保育園、小中学校側も「平成 29 年度も続けて欲しい。」との意向です。事実、「親から子に語り継ぐ大水害時の避難」についての活動は、継続することによりこの地域の全世代が避難の術を共有し、全ての人の命が助かる結果につながります。このため、平成 29 年度改めて助成申請を行い、結果を鶴首しているところです。

活動概要は次の通りです。

II、活動状況まとめ

[実施期間] 平成 28 年 8 月 1 日(月)～平成 29 年 3 月 11 日(土)

実施日	実施場所	実施概要
(1)平成 28 年 8 月 1 日(月)	上平井中学校	地域防災ボランティア部「今年度の取組」
(2) " 8 月 4 日(木)	東京大学	" 「水害の歴史講義」
(3) " 8 月 9 日(火)	上平井中学校	" 「防災マップ作成準備」
(4) " 8 月 24 日(水)	"	" 「グーグルアース使用と街歩き」
(5) " 9 月 11 日(日)	"	" 「町会ボート操船訓練に参加」
(6) " 10 月 20 日(木)	"	" 「校内学芸発表会」の事前調整
(7) " 10 月 22 日(土)	"(体育館)	" 「校内学芸発表会」で研究報告
(8) " 11 月 24 日(木)	上平井小学校	第 4 学年対象の竹本町会防災部長と塩崎講師による「地域の防災と浸水及び親水について」の出前授業とワークシート作成
(9) " 11 月 26 日(土)	うらら保育園	教職員・保護者対象の芝浦工大中村先生による「大水害時の避難について」講演会とパネル展示

- | | | | | |
|------|---------------|-----------|--------|--|
| (10) | 〃 | 12月6日(火) | 上平井小学校 | 第6学年対象の南・金両講師による「まちづくりと浸水・親水について」の出前授業とワークシート作成 |
| (11) | 〃 | 12月8日(木) | 二上小学校 | 第5学年対象の中川・塩崎両講師による「地域の防災と全な街を目指して浸水と親水について」出前授業とワークシート作成 |
| (12) | 〃 | 12月15日(木) | 中川七曲り | 新小岩北地区連合町会役員と大学生による東京都施工耐震補強工事現場見学 |
| (13) | 平成29年1月14日(土) | | 松上小学校 | 第6学年対象の寺島講師による「新小岩のあゆみと水害について」特別授業 |
| (14) | 〃 | 1月31日(火) | 二上小学校 | 第6学年対象の寺島講師による「新小岩のあゆみと水害について」特別授業 |
| (15) | 〃 | 2月18日(土) | 松上小学校 | 第3学年生対象の中川・塩崎両講師による「地域の防災と全な街を目指して浸水と親水について」出前授業 |
| (16) | 〃 | 3月11日(土) | 松上小学校 | 第5学年対象の竹本・南両講師による「地域の防災と全な街を目指して浸水と親水について」出前授業とワークシート作成 |

ある授業トピック

講師の分かりやすく語り掛け、普段と変わらない姿に生徒は親近感を感じた様子で、授業後も講師を取り囲んで話し合っていた。又、講師は「土地が低く、いざというとき何処へ逃げたら良いかをきちんと知っていたことにびっくりし感心した。」と感想を述べられた。

竹本講師の話を受けて、塩崎講師は、「川の近くで暮らすのは、楽しいこともあるけど危ないこともあります。水害の危険のある街を工夫すれば、楽しい街に変わる可能性もあります。水があるから災害があるけど、水があるからこそ水と親しめる、私は水を活かした街づくりを研究しています。」と自己紹介をしながらスクリーンに、中川からスカイツリーが見える写真を映し出し、「竹本さんは、スカイツリーだけでなくレインボーブリッジへもボートで訓練に出掛けていますね。」と聞くと、竹本講師は大きくうなずき、「日本橋川へも行きました。」と答えていた。次の画面を映しながら早速生徒に向かって、「この写真どこか分かる人？行ったことのある人？」と質問をすると、生徒の多くが「中川！」と答え、中には「毎日行っている。」と答えた生徒もいた。「この中川が遊べるようになるといいね。では世界の街を見てみよう！」と言いながら「オランダは、陸地の4分の一がゼロメートル地帯で、街の中に水路が多くあって、船がレストランになってたりして人々は水を楽しんでいます。」と、世界各地の水と共に暮らす様子を映し出すと、生徒達は画面に釘付けになって見入っていた。

殊に、橋の上から川へ飛び込んだり、ヨット遊びをする子に生徒達は「画面をアップにして下さい！先生は飛び込まなかったんですか？」と興奮気味に発言し

た。スクリーンには、アムステルダムのカヌーハウスや家に芯棒が通っている浮かぶ家、そして貯水池にもなる公園や川遊びをするカヌーが出てくると、講師は「水元公園へ行ったことのある人は？」に、殆どの生徒が手を挙げた。

ベルギーの川端にカフェ・レストランが並び、パリ・セヌ川を海辺のビーチに見立て寛ぐ人や砂の城を眺める人々、大きなボールを川に浮かべその中で遊ぶ子供達、一方水の中にある街イタリアベニスにゴンドラが走り、世界中の人がきれいな街にやって来る様子を生徒達は引き込まれるように見入っていた。

最後は水に係わる街づくりが盛んな、お隣り韓国の生れ変わった漢江と清溪に憩う人々と、中川七曲りの新装なったテラスとを映し出し講師は、「皆さん！川は楽しさと危険の両方があります。地域の持つ魅力と危険を知り、将来ここをどんな街にしたいかを想像してみましょう。」と結び授業を終了した。

質問コーナーでは、担任の先生から「地域での実際の取り組みは如何でしょうか？」と聞かれた講師は、「近隣の全町会ではボートを購入し、救出・食糧運搬等の訓練を重ねています。」と答えていた。

Ⅲ、なぜ事業を行うのか

当 NPO は、新小岩北地域の方々や管内の保育園、小中学校と共に、葛飾区役所を始め地元自治町会や関係機関の協力を得ながら、大水害や大地震時に安全確実な避難と避難生活が出来るよう、講演会を始め、出前授業やパネル展示等多様な活動を続けています。

この間、東日本大震災を契機に地域住民や小中学校との関係と連携を強めていますが、平成 27 年 9 月常総市の鬼怒川決壊や、昨年 4 月二度にわたる震度 7 の熊本地震、そして同年 9 月の岩手県岩泉町高齢者グループホーム入居者を襲った洪水被害等に見られる自然災害での『命だけは助かる』ことの大切さが一層増しています。

これらの自然災害を教訓に、各行政機関・自治町会・PTA・学校関係者が、当 NPO の主宰する活動に積極的に関わって頂けるようお願いすると共に、参加者もこれまでの熟年高齢者中心から生徒・学生へと広げる努力を続けています。

今回、葛飾区地域活動団体事業の助成を得て、万が一の水害や大地震で堤防が崩れ、水に襲われた際、地元うらら保育園、上平井小学校、二上小学校、松上小学校、上平井中学校の児童生徒が“命だけは助かる”ことを目的に、日頃から保育園・学校や家庭で迅速安全な避難について「親子で話し合い、語り継ぐ」講演会・出前授業・クラブ活動支援・パネル展示等の啓発活動を合わせて 10 事業行いました。

次年度も葛飾区からの助成を得て、活動が継続されますよう期待しています。

前理事長 石川金治氏

「平成 29 年河川功労者」として表彰される

廣木 良司

NPO ア！安全・快適街づくり

（故）石川金治氏は、NPO法人「ア！安全快適街づくり」の理事長として、葛飾区新小岩北地区を中心に、大規模水害についての啓発活動、地域の勉強会等の活動に長きにわたり取り組み、区による水位表示板設置のきっかけをつくるなど、地域の防災意識の高まりや防災活動に貢献したとして、葛飾区から推薦され、2017年5月26日に公益社団法人日本河川協会において「平成29年河川功労者」として表彰されました。



ボートを引いて水の中を歩く石川金治氏

第10回輪中会議開催

NPO ア！安全・快適街づくり 事務局

2017年3月26日、下記の通りのプログラムで第10回輪中会議を開催しました。

第10回輪中会議

～経験を共有し、未来（ヴィジョン）を考える～

時 期：2017（H29）年3月26日（日）

14時～17時 輪中会議（無 料）

17時～18時 交流会（500円）

場 所：新小岩地区センターの第一会議室＋第二会議室（約100人）

主 催：葛飾区新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会*

*構成メンバー：新小岩北地区連合町会、NPOア！安全・快適街づくり、葛飾区、
広域ゼロメートル市街地研究会、認定NPO日本都市計画家協会

今回のテーマ

「新たな経験を共有し、災害に向き合も、地域の未来・親水都市も考える」

1. 状況を共有する

西新小岩三丁目町会水害時避難場所高台等整備勉強会、ゴムボートなど実践活動など、東京大学加藤准教授近況報告、葛飾区高台関連他、東京都（中川の河岸耐震補強）、荒川下流河川事務所（荒川の耐震補強他）、内閣府（災害避難カード状況、アンケート結果）、国土交通省（災害関係ホームページの改善）ほか多数

2. 未来を考える

親水都市への視点の具体的イメージづくり、新小岩公園の高台化などに伴う周辺状況の最新情報を共有し、地域にある資源（モンチッチ公園、防災広場など）を見直しながら、親水と連動させた自転車道の整備など、点から線へ、面へ、地域の未来を考えます。水害リスクと賢く共存した水と緑の新たな親水都市へイメージを膨らませ地域の未来を語らうとともに、実現へ向けて意見交流を行う。

【これまでの経緯】

15年余にわたって町会、NPO、専門家、大学、行政などが中心となって、大規模水害に備えるための様々な活動、研究をすすめてきました。2012（平成24）年度「新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会」を組織。安全・快適まちづくり活動を広く地域に繋げ、交流、発展、創造の場として「輪中会議」を立ちあげ今回は第10回目。経験を共有し、地域の未来を語らう。



【プログラム】

第一部 状況を共有する

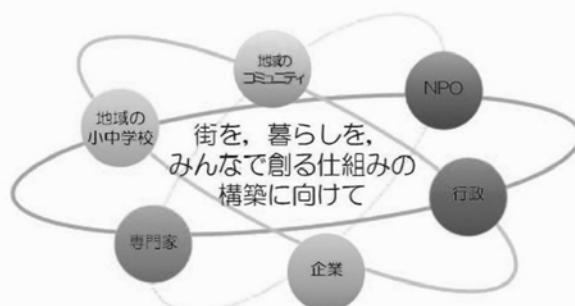
西新小岩三丁目町会 水害時避難場所高台等整備勉強会のこれから
 東新小岩七丁目町会 勉強会、実践活動報告 ポート保有と練習
 東京大学加藤准教授 広域ゼロメートル市街地研究会動向 東京都・全国動向
 葛飾区 近況報告 区の政策、区の高台化動向
 荒川下流河川事務所 近況報告、日本の河川と災害と対応策
 東京都 中川の耐震補強などと今後
 内閣府 災害避難カード、アンケート結果報告、今後の対策
 国土交通省 災害関係ホームページの改善結果報告
 上平井中 地域防災ボランティア部活報告、NPO・東大支援
 民間企業 からの地域関連報告 大成化工の空地活用と地域防災
 飾区保健所からの報告 災害時対応と日常活動
 医師会からの報告 最近の災害時トリアージ
 NPOア! NPOのパネルの行方、井戸の保存井戸の保存再生（土木研）今後の活動

第二部 意見交換 “未来を考える” “実現方策を考える”

経験を共有し、災害に向き合いつつも、地域にある豊かな資源を見直しながら、点から線・面へ、地域の未来を考えます。水害リスクと賢く共生した水と緑の新たな親水都市、快適自転車ロードまちづくり、浸水対応建築などイメージを膨らませ、地域の活性化、浸水から親水といった多層的視点で安全・安心・快適な街を考え、実現方策も意見交流し各活動へつなげ進展させます。

<キーワード> 各々が次の展開を考える / 防災“も”まちづくり / 平時の交流の場づくり
 / 地域の見直し / 地域を新たな視点で観察 / 実現をイメージ

第三部 交流会（参加自由、会費500円）「楽しくつながりをつくろう！」



エジプト水辺スケッチ紀行

山上 忠

NPO ア！安全・快適街づくり

<恵みの水>

到着の3時間前から窓の下にはネフド砂漠、シナイ半島、紅海、スエズ運河など緑には無縁の荒廃した景色が続きカイロ空港に着陸する。エジプト全土は西をサハラ砂漠に接しカラカラに渴いた砂漠である。しかしその国土の中心部の南北 1,200km をナイル河が貫き、そして大河は更に上流 3,000km に亘る源流の大量の降雨を集め毎年洪水となって下り、肥沃な耕土を供給し続けてきた。その恩恵で沿岸に数百メートルの中ではあるが農耕が定着し人口が確保され、更に水運を利用した商業と軍事力が発展し 6,000 年前にはピラミッドや神殿を築き古代文明が栄え始めていた。



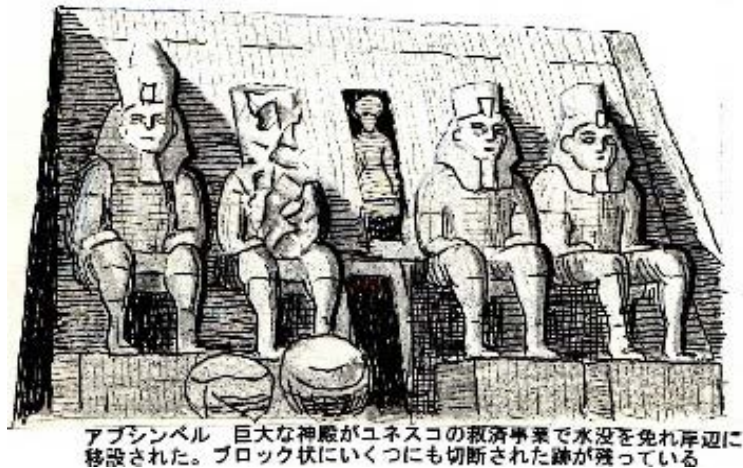
<紀元前の文化遺跡>

ナイル両岸の南北全域に遺跡が点在していて地中海アレキサンドリアからカイロにかけてはピラミッド群、700km 上流ルクソールには神殿や王家の谷、更に 400km 上流アスワン周辺からスーダンにかけたヌビア族の地の神殿群が観光名所として有名である。

<アスワンハイダムの功罪>

水資源の有効利用と洪水調節を目的としてダムは 1970 年ソビエトの援助で完成した。高さ 110m のロックフィルダムの巨大な滞水面積は世界最大級。これにより「功」として洪水被害の減少・耕作面積と農産物収穫の増大・200 万kWの電力・航路整備と水運増大・ダム湖漁業創生等があげられる。「罪」として洪水

が無くなり耕土の供給が止まって土地が痩せ・塩害が発生・環境変化で生態系が破壊・病虫害増大など深刻さを増している。また特筆すべきは 1960 年代、ダムが完成すると多数の遺跡が水没すると懸念され、ユネスコがヌビア水没遺跡救済キャンペーンを始めアブシンベル神殿他多数の遺跡の移設がなされ『世界遺産条約』のきっかけとなった事である。



<おわりに>

軍事政権から民主政権に代わり治安が悪化しテロが多発してこの 5 年間観光客は激減、機銃を携えた警官と一緒にないと移動もままならない状況ではあったが、12 年振りのエジプトは悠久のナイルに抱かれ水の恵みを最大限生かした豊かで穏やかな風情で迎えてくれ、巨石像や壁画の数々に痺れ陶醉と堪能の毎日であった。水の恩恵やダムの功罪、ユネスコのキャンペーン手法などは水辺ルネッサンスのこれからの構想に重ねて行くべき課題であると感想を持ち帰途についた。



上平井中学校 地域防災ボランティア部の支援報告と 地域活動の今後の展開に向けて

南 貴久

東京大学生産技術研究所 加藤孝明研究室

私は加藤研究室のメンバーとして、昨年夏より、上平井中学校の地域防災ボランティア部の活動を支援させていただいています。地域防災ボランティア部は理科部を前身とし、地元町会の方々とともに地域の災害リスクについて学んでいくなかで地域防災研究部へと発展し、さらに地域の活動に積極的に貢献していきたいとのことで昨年度より現在の名称になったと聞いています。地域の未来を担う人材である中学生が地域の方々と協働し、まちのことを継続的に研究して地域に貢献していくような場が部活動として与えられていることは、学びの場としても地域の資源としても、非常に素晴らしいものだと感じています。

地域防災ボランティア部では、毎年夏休みを中心に研究・体験活動等を行い、秋の学芸発表会の場で全校生徒の前で成果発表を行うことが慣例化しています。加藤研究室では、その夏休みの活動の支援を毎年行ってきました。昨年度は、夏休み期間中に防災マップづくりを行いたいとのことで、防災についての基本的な知識のレクチャーや、マップをつくるにあたってのアドバイス等の支援をさせていただくこととなりました。

○ 活動支援報告

夏休みの活動では、防災マップを作りたいとのことで、どのようなことを調べれば良いかを話し合いました。地域の中川さんからは、自身のカスリーン台風の被災経験を踏まえ、避難する人の目線で作られた誰が見ても分かる地図を作ってほしいといった要望や、垂直避難についても考えるべきではないかという意見をいただきました。私からは「浸水と親水」についての簡単なレクチャーを行い、リスクだけでなく地域の資源についてもマップに書き込むことを提案しました。

また、部員の小豆嶋くんから、災害の歴史を学びたいとの要望があったため、加藤研究室に来てもらい、関東大水害やカスリーン台風についての映像を見せて簡単に地域の水害の歴



夏休みの活動の様子

史を説明しました。さらに、オランダの親水空間の様子を写真で見せるなどして、水に慣れ親しむこととリスクを理解することがリンクしていることを説明しました。

また、防災マップをつくるにあたって、まちあるきを行う際に活用できそうな防災アプリ「天サイ！まなぶくん」や、成果をまとめるのに使えるような Google Earth の使い方を簡単にレクチャーしました。その後、「天サイ！まなぶくん」をインストールした iPad を持ちながら、上平井中学校から中川のボート発着場までの道を歩いてみました。

夏休み明けの 9 月には、中川にて行われた東新小岩 5 丁目・8 丁目合同のボート操船訓練に参加させていただきました。地域の町会の方々の自主的な取り組みについて知るとともに、実際の被災時にどうしたら安全かつ迅速に物資や傷病者等の輸送ができるのかを考えるきっかけになりました。参加した部員の小豆嶋くんは、町会の方に積極的に質問を行っていました。

10 月 22 日の学芸発表会では、実際にまちあるきをして得た地域のリスクや資源などの情報をまとめた成果を、全校生徒や来場した地域の方々に向けて発表しました。ここで終わらせることなく、さらに別の地区のまちあるきなども進め、防災マップをこれから完成させていきたいという意気込みを感じさせる発表に、会場からは大きな拍手が送られていました。



学芸発表会での発表の様子

○昨年度の活動の総括と今後の展開に向けて

地域防災ボランティア部の支援を 1 年間経験するなかで、この活動は生徒にとっても、地域の皆さんにとっても、非常に意義深いものだと感じました。

まず、生徒の視点からは、中学生の自分たちでも地域を良くする活動に加わることができるという気づきや達成感を得ることが、今後の地域活動や身の回りのさまざまな事物・事象への関心を高めることにつながるのではないかと思います。普段の学校での学びの中では、すでに体系化された正解のある知識を覚えるというスタイルの学びがどうしても多くなってしまうと思います。しかし、この部活動では、あるテーマについて自ら関心を深め、実際に地域や自然といった現場から学び取るという経験をすることができます。そこでは、教える側—教えられる側といったような固定的な関係性はなく、むしろ自分たちが主役になっ

て物事に取り組み、大人と同じような立場で活躍することができます。私自身の中学生のころを思い出してみても、生徒たちにとってこうした機会は非常に貴重であり、またさらなる探究へのモチベーションにも繋がるのではないのでしょうか。部員の皆さんには、今後も積極的に地域のことを研究し、「防災“も”まちづくり」の実践で活躍してくれることを期待しています。

一方、地域の視点からも、中学生が地域活動に加わることには 2 つのメリットがあると思います。まず 1 つは、地域活動に新しい風を送り込むという点です。地域活動の担い手は、どうしても年齢層が上の方々が多くなっています。中学生ならではの視点から地域活動に加わり、意見を出してもらうことで活動のマンネリ化を防ぎ、地域の大人の方々が持っている知識や知恵との相互作用によって新しいアイデアが生まれてくるきっかけになることが期待できると思います。特に、中学生の皆さんの Google Earth 等のツールを使いこなすスピードには目を見張るものがあります。デジタルネイティブ（生まれたときからデジタル機器に親しんでいる世代）とも言われるこの世代の人たちに地域の情報を発信してもらうことで、親世代をはじめとした地域の若い世代に防災を含めた地域のさまざまな活動を知ってもらうための窓口役としても、活躍してもらうことができるのではないのでしょうか。もう 1 点は、地域の活動の継続性を高めるという点です。地域活動の担い手を確保し、将来にわたって持続可能にしていくためには、次世代の人材育成が不可欠です。地域防災ボランティア部を地域ぐるみでの 1 つの人材育成の場としてとらえ、生徒たちが高校生、大学生、そして社会人になったときに、地域活動の現場で活躍したいと思ってもらえるように、ぜひ地域の皆様とともに今後も部活動支援を継続的に行っていきたいと思っています。



街歩きをする地域防災ボランティア部のメンバー

注目されています！新小岩北地区の取り組み

渡邊 喜代美・塩崎 由人
NPO ア！安全・快適街づくり

新小岩北地区の取り組みは、先進的な事例としてたびたび取り上げられ、注目が高まっています。

○ YouTube での事例紹介（東京防災救急協会）

東京防災救急協会が、防災教育を目的とした動画「君の命を守りたい―自助・共助～首都直下地震への備え」を公開しています。この動画の公開にあわせて、先進的な防災まちづくりの事例が紹介されています。広域ゼロメートル市街地での取り組みの事例として、新小岩北地区連合町会が取り上げられ、取り組みの様子などが動画配信サイト YouTube で紹介されています（詳しくはこちら：<https://youtu.be/W3MpKJWlqk8>）。

○ 雑誌「ネットワーク」への掲載（東京ボランティア・市民活動センター）

当 NPO で、東京ボランティア・市民活動センターから新小岩北地区での取り組みについて取材を受けました。取材を受けた記事は、雑誌「ネットワーク」348 号（2017 年 6 月）に掲載される予定です。

○ 注目される理由

新小岩北地区が注目されるのは、地域の人たちが主体となって、行政の動きよりも先行して取り組みを実践している点がユニークだからだそうです。また、中川でのボートの操船訓練など、楽しみながら訓練を継続している点も特長的だそうです。



2016 年 9 月 11 日中川操船訓練

中川でのボート訓練の様子をカメラマンが撮影している。

YouTube の東京防災協会のページで、訓練の様子が紹介されている。この日の訓練の様子は、当日の NHK・首都圏ニュースでも紹介された。

表紙・裏表紙の写真について

塩崎 由人

NPO ア！安全・快適街づくり

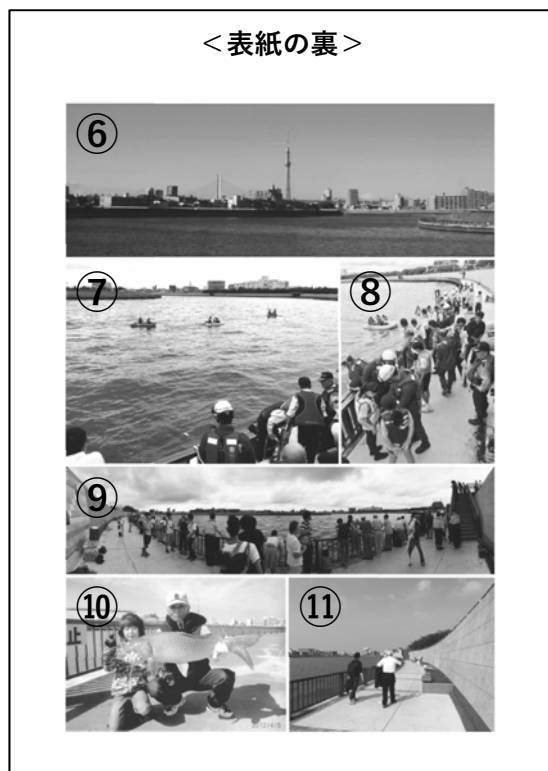
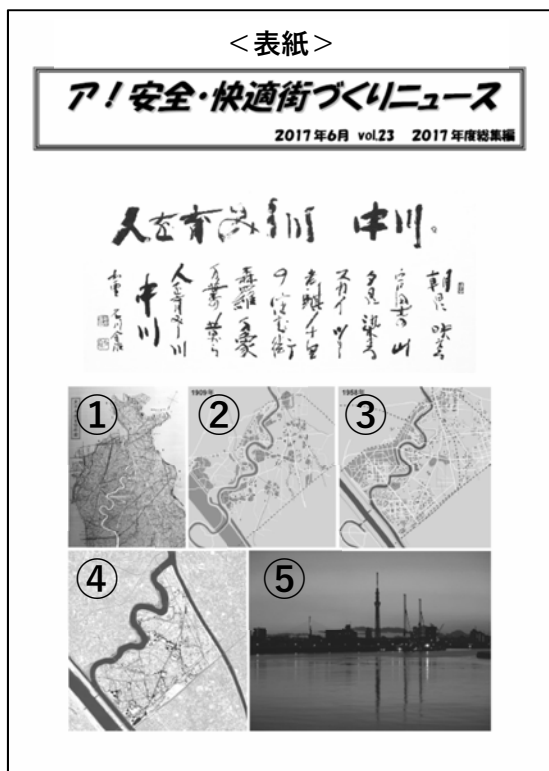
<表紙>

中川七曲りと新小岩北地区の変遷。未来の街をいかに考えるか？

- ① 東京府南葛飾郡図。昔は河川や水路が張りめぐらされていた。
- ② 1909 年の新小岩北地区。荒川掘削工事が進行中。
- ③ 1958 年の新小岩北地区。いまだ用水路が残る。
- ④ 以前、学生が構想した 2058 年の新小岩北地区の将来像。水と緑の街に！
- ⑤ 夕日に染まるスカイツリーと中川。石川前理事長が感銘を受けた風景。(写真提供：地域人)

<表紙の裏>

- ⑥ スカイツリー、富士山、ハーブ橋と中川七曲り。(写真提供：地域人)
- ⑦ ボートで遊ぶ人々か？ボート操船訓練実施中。(2016/9/11 中川操船訓練)
- ⑧⑨ 子どもも大人も興味津々！賑わいのある中川テラス。(2016/9/11 中川操船訓練)
- ⑩ 中川七曲りでこんな大きな魚がとれるんだって！(写真提供：地域人)
- ⑪ 中川テラスを散歩する人たちとベンチ



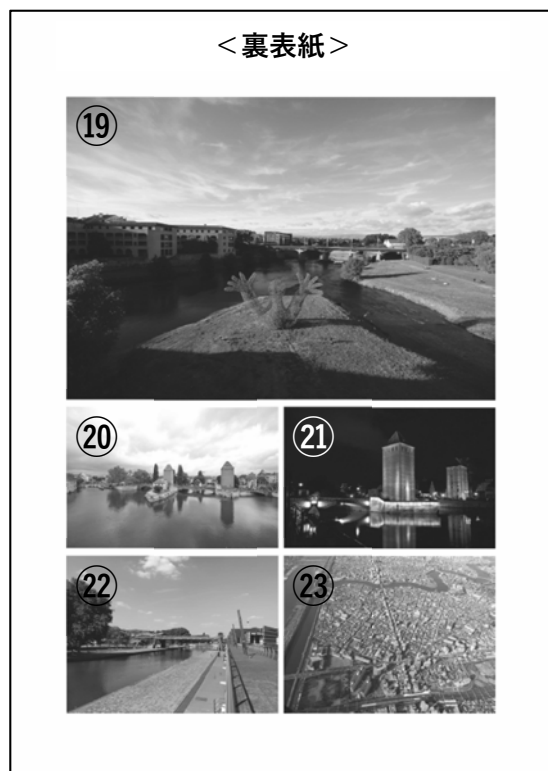
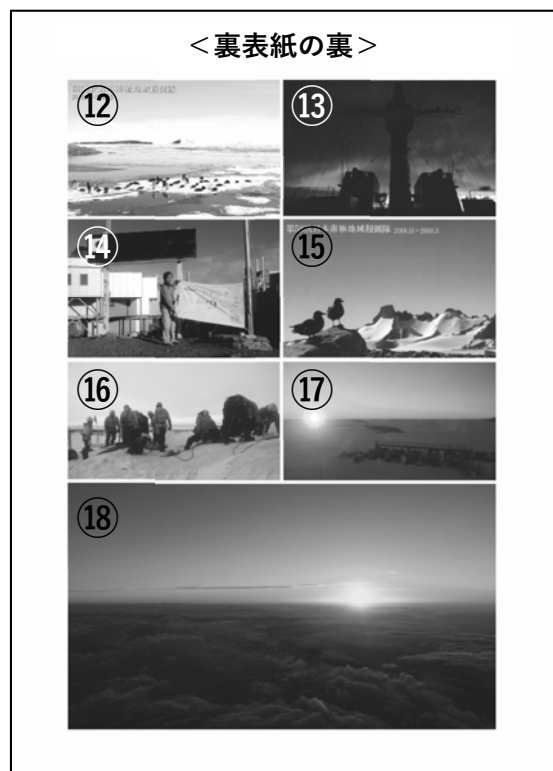
<裏表紙の裏>

- ⑫ 氷の上で戯れるペンギンの群れ（写真提供：南極ゆうびん）
- ⑬ 夜空をたなびくオーロラ（写真提供：南極ゆうびん）
- ⑭ 昭和基地の前で輪中会議メンバーからの寄書を広げる岡田越冬隊長（写真提供：岡田隊長）
- ⑮ 南極にも鳥はいるらしい。岩肌にとまる鳥（写真提供：南極ゆうびん）
- ⑯ 南極越冬隊、クレバスからの搬送訓練！（写真提供：岡田隊長）
- ⑰ 南極の地平線から昇る太陽（写真提供：岡田隊長）
- ⑱ 南極の日の出に負けじと日本の日の出。富士山頂から葛飾（東）の方を向いて撮った御来光。

<裏表紙>

- ⑲ 川辺から「こっちにおいで！」と両手をあげて呼んでいる！（フランス・カルカソンヌを流れるオード川の橋の上から撮影）
- ⑳ 水辺が豊かなストラスブールの街。イル川にかかるクヴェール橋（フランス）
- ㉑ 夜のクヴェール橋。ライトアップが素敵です。（フランス・ストラスブール）
- ㉒ パリ市内のラヴィレット公園。運河沿いの赤い建物にはカフェもある。
- ㉓ 上空から見た新小岩北地区。中川七曲りはかつこいい！未来はどんな街になるだろう？（写真提供：中村仁教授）

※写真提供について明記のない写真は塩崎撮影



新小岩北地区における活動の系譜

作成：塩崎由人・渡邊喜代美（NPOア！安全・快適街づくり）

知る
《情報・経験を共有する》

考える
《対策を検討する》

2002

}

2005

ワークショップ

2006

- 第1回 2006年12月
- 第2回 2007年1月
- 第3回 2007年4月
- 第4回 2007年12月
- 第5回 2008年2月

}

2009

- 第6回 2009年4月
- 第7回 2009年5月

2010

第1～5回ワークショップ

地域の水害リスクや行政の防災体制の現状を勉強した。それらを踏まえ、水害発生時に備えた自助・共助のあり方、被災生活のイメージ、水害に強い市街地の目標像を議論・検討してきた。



西新小岩周辺地域における安全・快適街づくり勉強会

町会、NPO、専門家、葛飾区、東京都、国から成る勉強会を立ち上げ、広域ゼロメートル市街地における水害対策の検討を行った。検討の結果として、①安全避難高台の確保、②浸水対応型建築物の整備、③近隣継続計画、④輪中共同体会議の設立、の4つの方向性が共有された。

2011

- 第8回 2011年2月
- 第9回 2011年3月



新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会の設立

2012

安全・快適まちづくり輪中会議

- 9月 第1回 「持ち寄りの共助」
- 10月 第2回 「持ち寄りの共助」
- 12月 第3回 「わからないことをなくす」

2013



- 3月 被災地訪問 宮城県南三陸町

2014



- 3月 第6回 「これからの協働のあり方を考える」
- 10月 第7回 「高台化のあり方を考える」

2015

- 3月 第8回 「経験を共有し、深め、輪を広げる」

2016

- 3月 第9回 「地域の新たな状況を共有し、未来を考える」

2017

- 3月 第10回 「経験を共有し、未来を考える」

協働体制をつくる

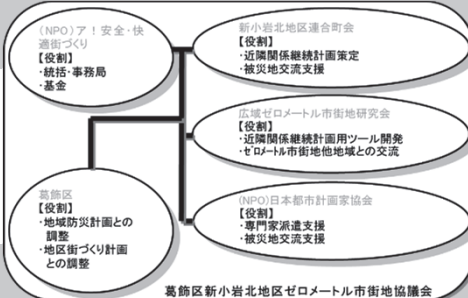
研究する (専門家・大学)

俯瞰する

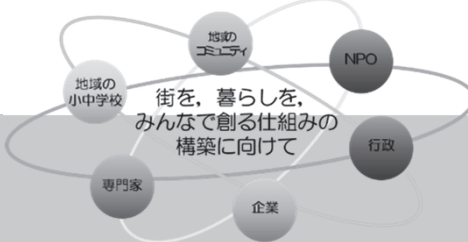
ワークショップ開始時



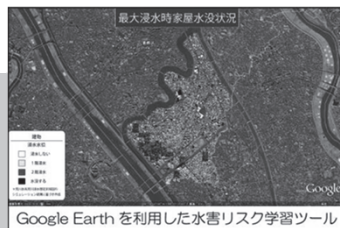
新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会



現在の協働体制



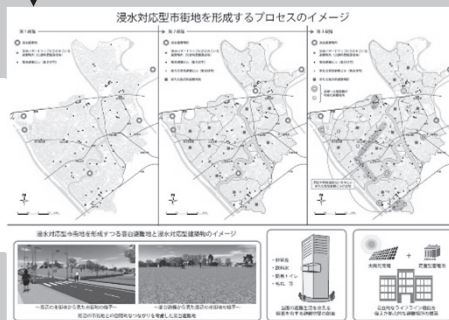
- ・ワークショップの支援
- ・水害リスクに関するデータの作成
- ・水害リスク学習ツールの開発



浸水対応型市街地研究会

- ・広域避難の実行性の検討
- ・必要な避難空間の推計
- ・高台、浸水対応型建築物のあり方の検討

- ・防災アプリの開発
「天サイ！まなぶくん」



水辺ルネサンス構想 (仮称) の検討

2008年
5月 シンポジウム「大規模水害に備える」
10月 全国まちづくり会議 in 恵庭

2009年
9月 全国まちづくり会議 in 川崎
パネル展示

6月 国際交流イベント
「水害に備える安全・快適まちづくり
シンポジウム」
10月 全国まちづくり会議 in 熊本

1月 国際交流イベント
全国まちづくり防災フォーラム

10月 全国まちづくり会議 in さいたま

3月 シンポジウム
「街を、暮らしを、みんなでどう守るか」

9月 全国まちづくり会議 in 神戸

3月 シンポジウム
「大規模水害に備えて街を、暮らしを、
みんなでどう守るか」
10月 全国まちづくり会議 in 長岡

3月 シンポジウム
「これからの協働のあり方を考える」

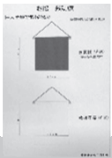
10月 全国まちづくり会議 in 北上

10月 全国まちづくり会議 in 東京

11月 三氏を語る会
「地域のこれからを語る」

9月 シンポジウム「災害から学ぶ」 (予定)
第一部 カスリーン台風の記憶と経験の共有
第二部 浸水から親水へ
10月 全国まちづくり会議 in 横浜 (予定)

実施する

NPO	町会	小中学校
2002 ? 2005 2002年 NPOア！安全・快適街づくり設立 2005年 水位表示ポールの設置	町会独自の取り組み 	
2006 ? 2009 2007年11月 ボード乗船下船・親水体験 「葛西海浜公園へ行こう」 2008年3月 「川から街を見る」 	2009年11月 松戸市21世紀の森と広場への避難訓練 西新小岩3丁目公園での炊き出し訓練 	
2010	避難用ボード使用訓練 	
2011 <u>ゼロメートル市街地協議会の運営</u> ・シンポジウムの企画 ・輪中会議の運営 小中学校での出前講座		水害も考慮した 避難所運営会議  上平井中学校 地域防災ボランティア部 の取り組み (NPO・大学も支援) 
2012 		水害を想定した 避難訓練の実施 
2013 	赤旗白旗救援訓練 	
2014 	民間マンションとの 水害時一次協定締結 中学生と共同で防災訓練 スタンドパイプの練習会	
2015		
2016	<u>内閣府・災害避難カード ワークショップ</u> 〔東新小岩7丁目町会、 内閣府、葛飾区、 NPO、大学〕	防災マップの作製 
2017		

実施する

PTA	福祉施設 民生児童委員	地域の有志	行政
			2007年～洪水ハザードマップの配布（区）  2009年 区民や事業者等への水害出前講義の開始（区） まるとまちごとハザードマップ（国）
			大規模水害対策検討委員会設置（区） 中川テラス開園（区）
			都市計画マスタープランの改訂による 高台避難場所の位置づけ（区） 「事業継続計画作成のすすめ」 を作成（国）
			「水害時における民間集合住宅との 一時避難締結に係わるガイドライン」 を作成（国）
ふたがみこどもまつり でのボート体験  	松上小学校への避難訓練 （たつみ保育園） 東京都認可保育園 BCP作成の義務化 アレルギーガイドライン 非常食アレルギー除去食 の購入 高齢者向けの防災講演会 水防法改正の説明会	水害時避難用高台整備勉強会 （西新小岩3丁目有志） おれたちの朝旅  	防災アプリ「天サイ！まなぶくん」 配信開始（区）  高台整備事例：東京理科大 葛飾キャンパス 1.5m程度の盛土を実施 洪水緊急避難建物の指定（区） 避難確保計画のひな型作成（区） 防災啓発DVDの作成（水害編）（区） タイムラインの検討（国） 洪水緊急避難建物への備蓄物資配備（区） 水害に強い建物を促進する街づくりルール検討（区） 消防団へのゴムボートの貸与（区） 江東5区大規模水害対策協議会
		勉強会から区への提言 区からの回答の受理 	要配慮者利用施設を対象とした水害時の 避難計画作成支援（区） 新小岩公園の高台化へ（区） 内閣府・災害避難カードワークショップ

人を育みし川 中川



石川金治作詞「人を育みし川、中川」の詩文全体は、北新小岩地域を流れる、中川のありがたさを、いつも感じているので、その讃辞です。この“老キ千里”の文言は、私達と一緒に活動の屋台骨を支えている人の顔を想像しやすい文言を探した結果です。また作詞のもう一つの動機は、事務局会議終了後、渡辺さんと

と塩崎さんと3人で、夕日の中のスカイツリーを見た時の感動が大きかったから、その感動が原動力となって、作詞をしました(石川)

老騏、老驥とはと問うたら、馬小屋に寝ていても志は千里にあり、老騏、老驥は個性あふれる表現という。石川さんは千の風にのって逝ってしまったが、書は生きている。再再度表紙に登場いただいた。(渡邊)

..... ♪ 編 集 後 記 ♪

NPO ア！安全・快適街づくりは、創設2002(平成14)年から2017年で15年。

そしてカスリーン台風から70年。災害を忘れず未来に向き合うシンポジウムを9月に準備しています。昨年は鈴木町会長、徳倉会長、石川理事長と惜別した。3人はそれぞれ問題提起をして逝ってしまった。3人は千の風にのって街を、人を見守っているだろう。3人は天で議論をしているだろう。

寂しさもあるが緊張もある。NPO ア！は、次世代がバトンタッチして活動を続ける。そして、若い世代も、地域の人も、小中学生も入り混じって、地域先行、自律発展を続けています。

「ゼロメートル市街地協議会」主催の第10回輪中会議は、2017年3月多分野の参加、特に中学生の発表と意見も加わって元気をいただいた。未来の大人が育つことがとてもうれしい。多様化と次世代化そして多層化が一步前へ。未来を考える柔軟性は、さらに高まると感じています。世代連携の持続可能都市へ、新たな進展の予感がリアル！である。

毎月根気よい地元勉強会は大学生、大学院生も参加し刺激をうける。地元から区へ提言。そして区から回答。また輪中会議で発表する。いい循環。すばらしい。おだやかにコラボレーションして、輪中会議はさらに刺激を受け自立発展をしていると感じる。参加者の皆さんに敬意を表します。

2011・3・11東日本大災害から6年目を超え、人たちのご苦労はいまだ続いている。地元のみなさんは“自分たちの街は自分たちで再生させたい”この思いでがんばっている。九州・熊本大地震、それぞれの限界を理解した上で、皆がシェアし合えるシステムをどう創るか、全ての皆に問われている。被災体験は単に語り継がれるのみならず自律発展へつながっていきます。カスリーン台風体験もまた。

NPO ア！にとどまらず、柔軟な協議会活動が評価され「葛飾協働まちづくり表彰」を受けた。NPO ア！事務局メンバーは、東京ボランティア・市民活動センターの取材を受けて活動への気持ちを語った。また、理事の加藤孝明はこれまでの活動をベースに「水害リスクと賢く共生する親水都市」を語り「浸水対応型市街地構想」を提唱した。区は都市計画マスタープランで「水害に強いまちづくり方針」が位置づけられた。東京都市白書で中川七曲りが地図に入った。これまで荒川以東が話題になることが少なかったことが不思議であった。“浸水と親水”は、新たな議論を呼び覚まして進展していくだろう。

これからも持続可能社会を希求していきたい。今号も皆様の積極的な参加、遠くて近い南極からのお手紙も加わって、すばらしい総集編となりました。 ありがとう、そしてありがとう♪

2017・6 編集責任：渡邊喜代美 編集協力：塩崎由人

「特定非営利法人 ア！安全・快適街づくり」

〒124-8535 東京都葛飾区西新小岩三丁目5番1号

電 話 / F A X 03-3696-7480

ホームページ：<http://www.banktown.org/>

第58次日本南極地域観測隊
2016.11~2018.3



第58次日本南極地域観測隊 2016.11~2018.3



